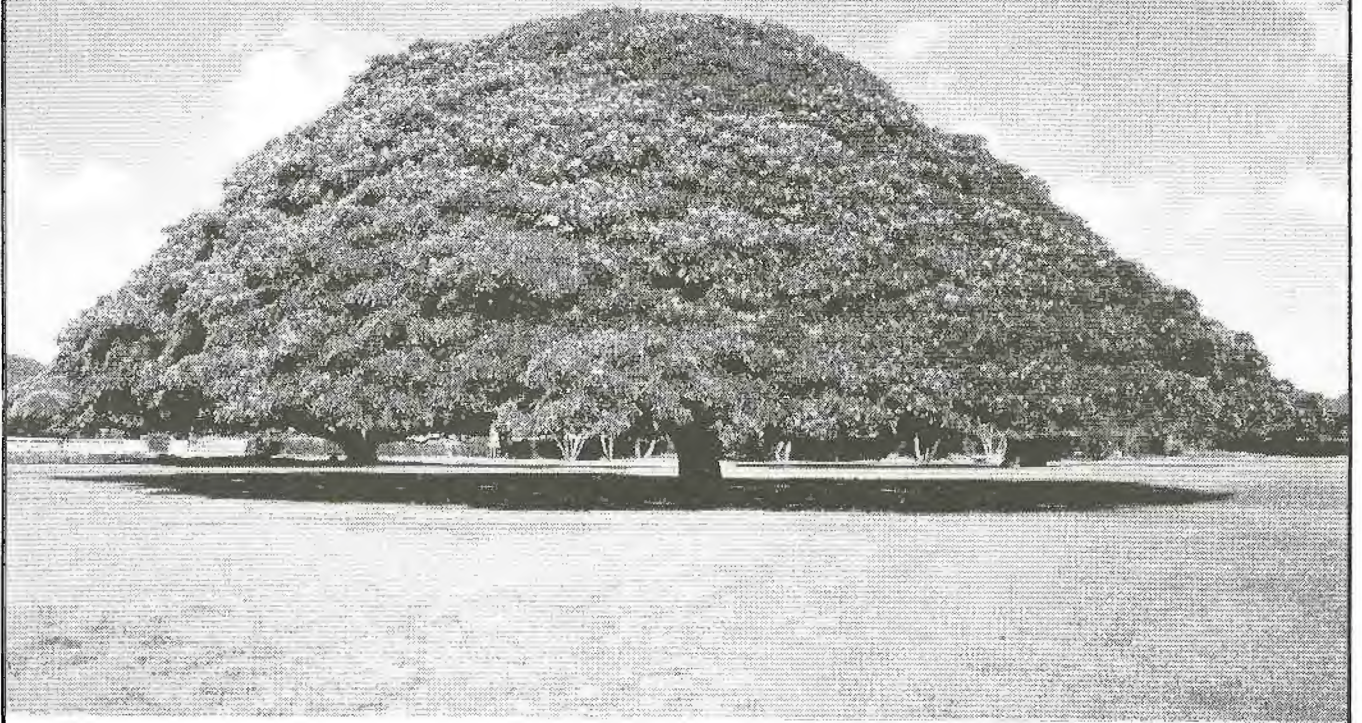


きっと、もっと、すてきな夢を咲かせます。

人間らしさをキーワードに、いま私たちの生活や社会には

本当の豊かさやゆとりが求められています。

日立は、どこまでも人にやさしい先端技術を通じて

そんな暮らしの夢をひとつひとつ花開かせ

豊かな実りをお届けします。

株式会社 日立製作所

協会だより

5月度常務理事会

日　時　5月11日(土)
場　所　日体協504号会議室
出席者　中澤専務理事、常務理事7名、参事1名、事務局2名

1、'97男子世界選手権・熊本関連事項

(1)'97男子世界選手権・熊本計画書(素案)の再見直しの報告について

(2)ジャパンカップ'96の日本協会と熊本事務局から反省点を今後の運営打ち合わせや実施準備にあたって参考にする。また、IHF本部より返答のあった項目を参照しながら日本協会と熊本事務局が並立して円滑に運営できるよう密に情報交換をする。

(3)日本協会としての組織的対応について

'97世界選手権大会を開催するための日本協会の体制について、確認了承した。

日本協会の世界大会に向けての役員の事業担当について決定された。また、日本協会の組織連係図を作成し、問い合わせに対し担当ごとに対応できるよう検討する。熊本事務局との情報交換の開催について日程を調整する。

(4)世界選手権実施に伴う日本協会執行体制について

次年度の役員選出について、世界選手権熊本大会を見据えて役員の任期及び交代に関して審議した。

(5)財務問題について

日本リーグオーナー会議特別助成金の使途について、強化費以外の資金活用計画を検討することについては保留する。

日本協会としてのスポンサー集めについて報告があった。

5000人キャンペーン(仮称)活動計画について、募金活動による全国PR活動の一環として実施するが、これに要する経費と会員の恩典などについて審議した。

各国内大会プログラムに熊本大会の告知ポスターを掲載するよう熊本事務局へ依頼する。

(6)世界選手権大会期間中の動員について

世界大会期間中に競技会を開催することによって、集客対策につながるのではないかとの報告があり、実連理事長と調整することとなった。

(7)日本リーグオーナー会議特別資金について

'98年度からの日本リーグ年間登録金制度について、日本リーグ委員会の提案があり次第、常務理事会で検討する。

2、強化関連事項について

(1)5月度チーム別事業予定報告

全日本男子メンバーについて、22名を承認。

第4回アジア女子ジュニア選手権大会派遣について、24名を承認。

(2)'97 JAPAN CUP 開催について

熊本で2月下旬に開催予定の提案について、日本協会として資金的に調達できれば、開催に向けて熊本県協会と協議することで了承。

(3)日本、スウェーデン国際親善大会について

'97年4月下旬に、国内転戦で全日本3試合、実業団3試合を、全日本チーム強化の最終仕上げとして、親善試合を開催する提案に対し、開催資金が実業団の分担金を含め、調達できれば開催について了承。

(4)全日本女子チーム樫塚監督の任期について

'97年世界選手権及び次期オリンピックの出場権獲得を目標に強化活動をし、第13回世界選手権（ドイツ）まで監督任期とすることを承認。

(5)強化委員会の再構築及びスタッフの選任方法について

強化委員会のメンバーは現状の委員構成で運営することを了承。

スタッフの選任機関「ナショナル委員会」の設置、委員構成について決定。必要の都度開催し常務理事会へ上申し決定することで承認。職務は主としてナショナルチーム監督の選任に関する事項で、ナショナル委員会規定は別に定める。

3、平成8年度全日本総合選手権大会について

(1)出場枠について

3月常務理事会提案の全日本総合出場枠の見直しについて、具体的提案がなされたが、3月議事録通りとし見直しは行わない。

(2)審判関係（IFセレクションコース）の対応について

審判及びPRC合計19名の来日の報告があり、経費等について対応することとなった。

4、平成9年度全日本総合選手権大会について

女子世界選手権のため分離開催となる。男子は東京開催。東京都協会が主管できないときには、日本協会でプロジェクトを組んで実施する。女子は他県協会に依頼。

今後は男女とも他県協会に依頼することも検討する。

5、平成8年度主要大会への役員派遣について

派遣予定通り了承した。

6、東アジア競技大会競技種目について

資料による経過報告があった。

競技採用の要請をJOC会長宛に提出し、大阪市へは山田会長へ対応について打診している報告があった。

7、その他

(1)第2回広島国際ハンドボール大会について、(6月19日より22日開催)大会要項の報告があった。

(2)1998バンコク　アジア大会競技種目にハンドボールが健在であることが報告された。なお、正式決定は7月アトランタにおいてのアジアオリンピック評議会になる模様。

(3)アンチドーピングに関する教育・指導法について

JOC強化発の通達文書を各都道府県協会、各連盟、日本リーグチームに送付することとした。

(4)IHF、MC委員長が、熊本世界選手権時のMC国際医学会開催の打診のため来日する事が報告された。

(5)日本リーグオーナー会議年間登録金について、1部昇格のトヨタ車体、新加入のアラコ九州に説明のために訪問することが報告された。

(6)四国ブロック長の交代について報告があり、任期中の交代であるため協会規定を確認のうえ対応することとした。

第37回全日本実業団選手権大会

女子は大崎電気が3連覇
男子は中村荷役2年ぶりの優勝

第37回全日本実業団選手権大会は5月1日～4日まで熊本県立総合体育館、合志町総合体育館にて男子12チーム、女子12チームの間でトーナメント方式で行われた。

男子は中村荷役が準々決勝で大崎に、準決勝でも大同に苦戦しながらも決勝では地力を発揮し、2連覇をねらった湧永製薬を圧倒、エース趙、呉らの活躍で2年ぶり2度目の優勝を飾った。

女子は波乱ぶくみ。日本リーグ覇者のオムロンがジャスコの粘りと走りにまさかの敗退、イズミ（日本リーグ3位）も頼みのエース林が韓国に帰国し、戦力がダウン、立山アルミに初戦で32－19と予想外の点差で敗れる。

北国銀行も立山の前に敗れるなど混戦。ジャスコ、立山アルミの日本リーグ2部から1部へ上がった両チームの健闘が光った。

決勝は大崎電気が日立栃木を尹、金らに広瀬、GK金丸らの活躍で逆転で破り、見事に3連覇を飾った。

★表彰選手

【ベストセブン】

（男子）

井上　耕一（中村）
呉　龍基（中村）
趙　範衍（中村）
木浪　達文（中村）
山口　修（湧永）
杉山　裕一（湧永）
末岡　政広（大同）

（女子）

広瀬　喜代香（大崎）
尹　秉順（大崎）
金丸　淳子（大崎）
松本　恵美（日立）
沖土居　真子（日立）
白　永蘭（立山）
土師　基子（ジャスコ）

（男子）

◇3位決定戦

大同特殊鋼 25（12－8、13－7）15 本田技研

大同特殊鋼 得点	氏名	番号	本田技研 番号	氏名	得点
0	秋吉	1	2	弥吉	0
0	佐藤	2	3	丹羽	2
0	阿萬	3	4	後藤	0
1	中谷	4	7	茅場	2
1	松本	5	8	加藤	5
1	植木	6	9	日原	3
6	富本	7	10	広政	2
3	藤井	8	11	平松	0
5	林	9	12	橋本	0
8	末岡	10	16	四方	0
0	日原	12	14	山村	1
0	南川	14	15	中里	0
25	合計				15

【戦評】大同は前日の中村戦に惜しい星を落とし、その敗戦によるショックが尾を引いているのではと思われたが、前半立ち上がり、気力でも本田を圧倒、9番林のロング、10番末岡の速攻とDFの裏をかいたシュート、冨本のカットイン、ロングなどで得点、守っても早いつぶしで本田の動きとパスワークをとめる。

本田はよく動いてチャンスをうかがっているものの連係プレー、つながったプレーがみられず、わ



男子3位決定戦、大同特殊鋼対本田技研の試合

かずかに8番加藤の巧技、GK新人・四方のキーピングが光っていた。期待された新人・茅場、広政もまだ十分チームにとけこんでおらず、本来の切れ味のいいプレー、シュートが見られなかった。しかし、有望選手が多いだけに秋以降どう建て直してくるか興味深い。

大同は末岡、林を軸に冨本、藤井らの全日本選手がDFをかき回し、松本、GK新人・日原も良く動いて随所に大同らしい攻撃が見られ、全く危なげない勝ちだった。しかし、時々バッタリ足がとまり、動きがとまるケースがあり、この波をどう克服するかが課題となろう。

◇決勝戦

中村荷役32（14－9／18－8）17湧永製薬

中村荷役				湧永製薬			
得点	氏名	番号		番号	氏名	得点	
0	林田	1		1	多田	0	
3	木浪	2		2	松本	2	
4	西村	3		3	河原	0	
2	下間	4		5	堀田	2	
3	泉	6		6	山口	4	
4	八尾	7		7	中山	0	
3	高木	9		11	高田	4	
5	呉	11		12	坪根	0	
0	井上	12		13	小沢	0	
8	趙	13		14	田中	1	
0	林	14		15	杉山	4	
0	宇佐見	19		17	浜本	0	
32			計			17	

［戦評］両チームは3月末の日本リーグプレイオフ決勝を戦ったチームだが、1ケ月後、再び対戦。しかしチーム事情は大きく変わった。中村は松本監督から朴監督に、一方湧永も酒巻監督からプレイングマネージャーとして河原監督になり、今シーズンをうらなう意味で注目すべき一戦となった。

湧永はベテラン勢、GK井藤、CPの酒巻、長沢、玉村ら湧永を支えてきた選手が引退、新チームとして不安の大会を迎えたものの、前日の本田戦まで、GK坪根（福岡大出身）の加入もあって上昇ムードにあり、期待をいだかせた。

湧永は立ち上がり、高田のゲットで波に乗るかに見えたが、中村のエース趙、呉、泉らで一気に4点、18分には11－4と中村リード、決勝戦のスコアとしても誰も予想しない点差となる。中村は趙、呉のロング、速攻、また八尾、泉らの巧技で全く手をゆるめず、湧永は前日まで見せた全員プレーが影をひそめ日本リーグプレイオフと同様に中村の3：3の防御を攻めあぐみ、期待のエース中山も全くシュートまでもっていけず、わずかに杉山のポスト、サイドからの単発シュートで返すのみで全く打つ手なし。

中村の防御は全員がよく動き、コンビがとれているので、パス回しもシャットアウト、前半のおわりに湧永に4点を奪われたものの14対9と中村の5点リードで折り返す。

後半も中村は攻守の切り替えの早さで湧永のロングシュートをおさえ、ポストへのパスもことごとくカットして速攻に結びつけた。後半9分から15分まで実に連続7点をとるなどやることなすことすべて中村ペース。湧永の連係プレーも中村の早いつぶしで動けず、エース中山を生かすプレーも見られず、とうとう中山は0点、これではとうてい勝ちにつながらない。

予想外の大差となり、中村全員のハツラツプレーばかりが目立った。朴監督の抜けたポストも泉、木浪らがカバー、またGK井上、趙、呉のシャープな動き、八尾、高木らの気力あふれるプレーがチーム2年ぶり2回目の優勝を飾った。



男子決勝戦、中村荷役対湧永製薬の試合

〔女子〕

◇3位決定戦

立山アルミ28 (10—15、14—9、3—2、1—1) 27ジャスコ

得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
立山アルミ			ジャスコ		
2	前山	2	1	松尾	0
1	田中	3	2	山形	11
3	嶋田	4	3	橋谷	4
0	山崎理	6	6	浦田	1
1	山崎有	7	8	池田	4
0	新屋	10	9	原田	0
0	佐山	11	10	田中	0
0	佐藤	12	11	土師	3
13	柳	13	13	佐々木	0
8	白	14	14	松永	4
0	三野	15	15	森下	0
0	村上	16	16	大浦	0
28	合計				27

【戦評】 ジャスコ、立山アルミとも前年度日本リーグ2部から今年度昇格したチーム。平成8年度初めての大会でジャスコは前年日本リーグ覇者のオムロンを破り、一方立山アルミは北国銀行を堂々破っての立派な4強進出で、注目の一戦となった。

前半、ジャスコは土師を中心に動きのあるプレーで立山アルミをリード、15—10で前半を折り返した。このままジャスコのペースになるかと思われたが、立山アルミは柳、白の韓国コンビが個人プレーで生かし挽回、ついに28分には24—24の同点に追いつく。このあと立山は山崎のノーマークをジャスコGK松尾が好守、また4番嶋田のサイドのノーマークを松尾が連続ファインプレーで延長戦に。

延長前半、立山・前山の速攻、カットイン、嶋田の右サイドからのシュート、ジャスコも山形の回り込み、土師の右サイドで対抗、1点を争う緊迫したゲームが続いたが、延長後半、柳の7mスローで2点リード、必死に挽回するジャスコも松永が決めるも辛くも立山が逃げ切った。

両GKの活躍もあり、いいゲームだった。立山アルミは柳が13点、白が8点と2人で21点をかせぐ大活躍だった。



女子3位決定戦、立山アルミ対ジャスコの試合

◇決勝戦

大崎電気30 (14—16、16—9) 25日立栃木

得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
大崎電気			日立栃木		
2	川村	2	1	藤井	0
0	永尾	3	3	伊佐野	4
0	佐々木	5	4	桐谷	5
8	広瀬	6	5	嶋野	2
0	佐々川	8	7	尹	0
3	船津	9	9	高野	0
10	金	10	10	松本	5
0	北村	11	2	小宮	0
0	後藤	12	12	渡辺	0
5	尹	13	13	板谷	0
0	金丸	16	15	沖土居	6
2	結城	18	17	王	3
30	合計				25

【戦評】 両チームとも決勝まで抜群の攻撃力と得点力で他を圧倒。日立は準決勝の立山アルミに前半苦しみながらも11点差をつけての決勝進出。一方大崎はジャスコに苦しみながらも得点力で決勝に駒



女子決勝戦、大崎電気対日立栃木の試合

を進めた。準決勝までの戦いは日立の方がいくぶん分があるという戦前の予想。

日立は前半立ち上がりいきなり3連取で幸先いいスタートを切る。10分には7－2と5点のリード。特に15番の小柄な（155cm）沖土居のリードと得点で有利に試合を進めた。一方大崎はベテランですべてを知りつくしている13番尹のリードから、広瀬、川村らを生かし新加入（韓国）10番金の幅の広いプレーなどで対抗。日立の5点のリードも26分には13－12と1点差。ここから日立は沖土居、伊佐野のゲットで再び4点差、大崎も尹が29分連続ゲットで2点差。

後半、お互い3点連続得点など激しいゲーム。10分に20－20、15分22－22と全く互角の勝負。大崎は中盤、金のステップが決まり1人で3連取、また船津、結城らがゲット、日立は松本、沖土居らががんばるものの防御の要、17番王が負傷で退場、大崎も攻守の要・尹が3分前手痛い退場。ここで日立は反撃するかに思われたが、あせりから無理なシュートが逆に大崎の速攻を許し、今一歩まで追いつめたが大崎が辛くも逃げ切り3連覇を飾った。

大崎は尹、金が中心だが、広瀬、船津、川村、結城らの動きがノーマークをつくったのも大きかった。

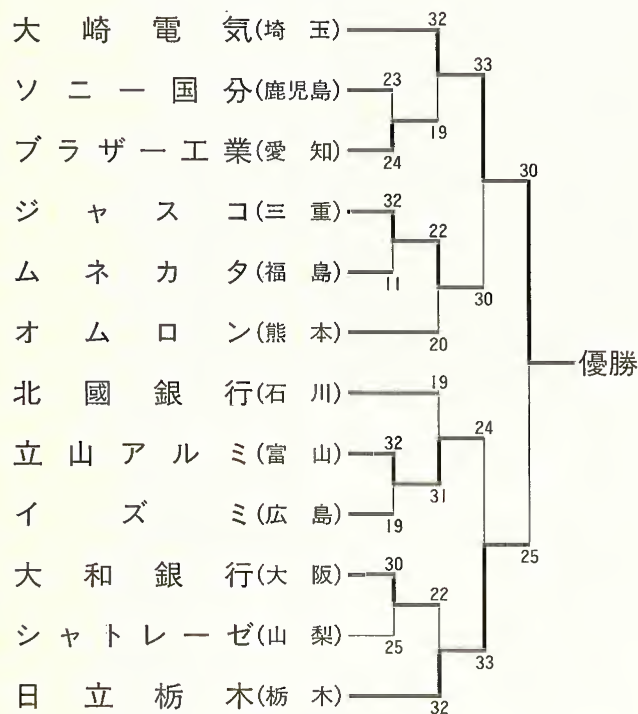
第37回全日本実業団ハンドボール選手権大会

男子の部

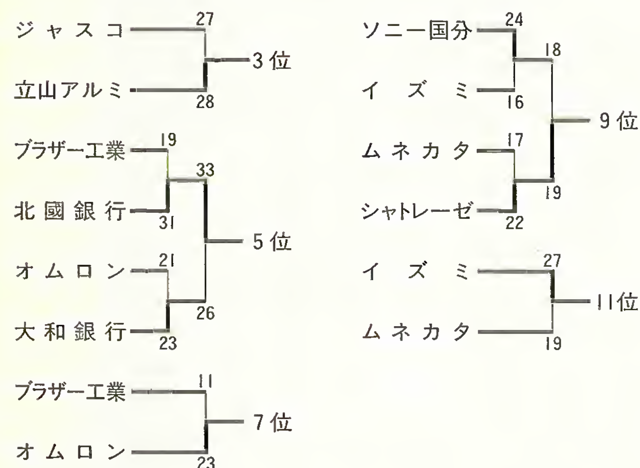
1位 中村荷役
2位 湧永製薬
3位 大同特殊鋼
4位 本田技研
5位 三陽商会
6位 日新製鋼
7位 大崎電気
8位 トヨタ車体
9位 日本電装
10位 日新製鋼呉鉄球会
11位 本田技研熊本
12位 北陸電力

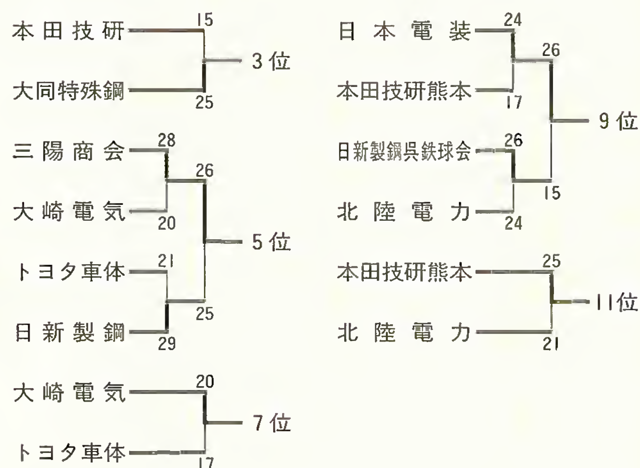
女子の部

1位 大崎電気
2位 日立栃木
3位 立山アルミ
4位 ジャスコ
5位 北國銀行
6位 大和銀行
7位 オムロン
8位 ブラザー工業
9位 シャトレーゼ
10位 ソニー国分
11位 イズミ
12位 ムネカタ









第2回 男子ヨーロッパ選手権大会

ロシアが初優勝！
スペインが健闘、
アトランタ行きを決める！

第2回男子ヨーロッパ選手権大会は、スペインのセビリアとチューダリアルにて12カ国が参加して5月24日～6月2日まで行なわれた。

連日40度近い猛暑の中、地元スペインの活躍もあり最後まで連日盛り上がり、熱気のある大会となった。

アトランタ・オリンピックを2カ月後に控え、また97年日本（熊本）での世界選手権大会の出場資格も兼ねているだけに一戦一戦白熱したゲームが展開され、どこが上位にきてもおかしくない戦いであった。

決勝はロシアがスペインの粘りにあいながらも防御からよく走って速攻で得点、大男の中で両サイド、センタープレーヤーの巧技が光り初優勝を飾った。

スペインも予選でスウェーデンを破って勢いが出て、準決勝でも強豪ユーゴを破り堂々決勝進出を果たした。

[予選Aグループ]

クロアチア30（17：13）27ハンガリー
ユーゴ23（10：9）22ドイツ
ロシア22（10：7）18スロベニア
クロアチア25（11：10）21ドイツ
ユーゴ21（10：10）20スロベニア
ロシア33（16：10）21ハンガリー
ハンガリー24（12：11）24ドイツ
クロアチア26（13：9）スロベニア
ロシア20（11：8）20ユーゴ
ユーゴ27（14：11）24クロアチア
ロシア22（11：9）18ドイツ
ハンガリー21（10：7）17スロベニア
ドイツ25（10：5）16スロベニア
ユーゴ26（12：14）24ハンガリー
ロシア23（13：11）21クロアチア

[予選Bグループ]

チェコ32（17：13）25ルーマニア
スペイン24（14：11）23スウェーデン
フランス25（12：11）22デンマーク
スペイン28（12：5）22デンマーク
チェコ31（16：11）29フランス
スウェーデン28（14：14）24ルーマニア
スペイン25（11：10）21チェコ
スウェーデン23（12：8）21デンマーク
フランス27（13：11）20ルーマニア
チェコ28（12：9）22デンマーク
スペイン26（15：10）21ルーマニア
スウェーデン26（13：12）20フランス
ルーマニア27（15：10）21デンマーク
フランス29（16：13）スペイン
スウェーデン24（13：7）17チェコ

表1　[Aグループ順位]

		ゲーム	勝	引分	負	得点：失点	ポイント	
1	ロシア	5	4	1	0	125：93	+27	9
2	ユーゴ	5	4	1	0	117：110	+7	9
3	クロアチア	5	3	0	2	127：125	+2	6
4	ドイツ	5	1	1	3	110：111	-1	3
5	ハンガリー	5	1	1	3	117：130	-17	3
6	スロベニア	5	0	0	3	93：115	-22	0

※ロシア、ユーゴは得失点差によりロシアが1位。

表2　[Bグループ順位]

		ゲーム	勝	引分	負	得点：失点	ポイント	
1	スペイン	5	4	0	1	124：116	+8	8
2	スウェデン	5	4	0	1	124：106	+18	8
3	チェコ	5	3	0	2	129：125	+4	6
4	フランス	5	3	0	2	130：120	+10	6
5	ルーマニア	5	1	0	4	117：134	-17	2
6	デンマーク	5	0	0	5	103：101	-23	0

※スペインがスウェーデンに勝ちのため、得失点差で下回っているがスペインが1位となる。

▽11～12決定戦
スロベニア27（12：11）24デンマーク
▽9～10位決定戦
ルーマニア28（12：13）27ハンガリー
▽7～8位決定戦
フランス24（13：9）21ドイツ
▽5～6位決定戦
クロアチア27（14：7）25チェコ
▽準決勝
スペイン27（11：8）23ユーゴ

ロシア24（11：8）11スウェーデン

▽3～4位決定戦

ユーゴ26（13：15）25スウェーデン

▽決勝戦

ロシア23（13：9）22スペイン

【表彰選手】

大会得点王

クノット（ドイツ）

ベストGK

フォルト（スペイン）

ベストハセ

ドイシエバエフ（スペイン）

ロスカ（大会マスコット）賞

ソールソン（スウェーデン）

● ●

5月31日

セミファイナル（準決勝）

スペイン27（12－7、15－16）23ユーゴ

得点	[スペイン]	番号	番号	[ユーゴ]	得点
0	フォルト	1	1	ストヤノビッチ	0
2	エスクィエル	3	2	スクルビッチ	4
3	グイホサ	4	5	P.ベルニテッチ	1
2	ゴンザレス	6	6	ステファノビッチ	5
0	ロザノ	7	7	クネゼビッチ	2
1	オラルラ	8	8	ヨバノビッチ	1
4	ガラルダ	9	9	ペルニィッチ	4
7	ドイシェバエフ	10	10	ブツリーヤ	2
0	フェルナンデス	11	11	ブヨビッテ	0
0	ヌネス	12	12	ペリッチ	0
6	ウルデイアレス	13	14	ミロサフレビッチ	3
2	エトクサブル	18	15	アドジッチ	1
27		計			23



得点	[ロシア]	番号	番号	[スウェーデン]	得点
0	A.ラフロフ	1	1	M.オルソン	0
0	I.ラフロフ	2	2	ヘディン	0
5	コウレショフ	5	3	ビスランダー	0
4	ボローニン	7	5	リンドグレン	0
2	ゴピン	8	6	カーレン	1
7	クジノフ	9	7	ハヤス	2
0	トルゴバノフ	11	9	ロブグレン	2
0	スコシアン	12	10	R.アンデルソン	4
0	グレブネフ	14	11	ソールソン	6
0	キセレフ	17	13	S.オルソン	0
6	ポブレロフ	19	14	M.アンデルソン	6
0	フィリポフ	20	16	スベンソン	0
24		計			21

試合開始前からサポーターのけたたましい声とタイコの音。そしてスペインの国旗をふりかざしての大声援で会場は熱気ムンムン。

前半スペインはエースドイシェバエフのリードと自らがステップシュート、フェイントから体を倒してのシュート18番エトクサブルのポスト等で14分には7－4とリード。

ユーゴは会場の雰囲気にのまれ、硬さとアトランタ行きを是非決めたいこの一戦にかけるファイトがから回り、昨日までチームの得点頭ベルニッチが冷静さを欠いて、シュートをことごとくとられたのが痛かった。

10－6のあと、ユーゴはたまらず作戦タイムで流れをかえようとする。このあと防御 体型を3：2：1から6：0に変え、そしてドイシェバエフをマンツーマンにでる。

しかしそれでもドイシャバエフが真中からあざやかに決める。ゲームは、とにかく一つ一つのプレーに対して大声援とブーイングが入りまじりレフェリーの笛もなかなか聞こえない。

ベンチも選手が一挙手一投足に立ちあがりもう興奮をとおりこしている。後半15分ユーゴ・ブッリーヤがサイドシューターの顔を手でブロックしたため失格、会場からは物は投げこまれるなど興奮のルツボ。まるで闘牛場そのものである。

その中でスペインG・Kフォルトの冷静なプレーと判断力がスペインを救ったといえる。

スペインは勝ちを意識しすぎたため、ユーゴに17分－22分に連続4失点で22分には18－16と緊迫。

しかし、ガラルラが真中からジャンプ、ペレスが速攻、ゴンザレスからポストのエスクィエルにわたりゲット。粘るユーゴを突き放す。

粘るユーゴであったが、ここまでつめるのが精一杯。スペインがアトランタオリンピック行きと決勝進出を決めた。

● ●

6月2日　3位決定戦

ユーゴ26（13－15、13－10）25スウェーデン

得点	[ユーゴ]	番号	番号	[スウェーデン]	得点
0	ストオノビッチ	1	2	ヘディン	5
4	スクルビッチ	2	3	ビスランダー	2
1	コバヤビッチ	3	4	スィベルトソン	0
0	リシチッチ	4	5	リードグレン	0
0	ステファノビッチ	6	6	カーレン	4
5	クネゼビッチ	7	7	ヘヤス	3
6	ヨバノビッチ	8	9	ロブグレン	4
2	ペルニチッチ	9	10	R.アンデルソン	0
8	ブツリーヤ	10	11	ソールソン	6
0	ペリッチ	12	12	ゲンツェル	0
0	モシッチ	13	14	M.アルンデルソン	1
0	ミロサフレビッチ	14	16	スベンソン	0
26		計			25

前半立ち上りからスウェーデンがは好調。ノーマークをきっちり決め常にリード。特に長身2番のビスランダーを投入したのがあたり、ロングシュートがことごとく決まり、これでポストも生かされ幅の広い攻撃を展開。これに対しユーゴは、スウェーデンの一線防御を攻め切れず、苦戦、ブヨビッチがはこのゲームに出場せず。ひびいたのか……。

しかしユーゴは後半、センタープレーヤー・ヨバノビッチが大活躍。ステップ、ジャンプ、カットインプレー、また、10番ブツリーヤあざやかなステップで反撃。8分、同点においつき両チームともプレーが荒くなる。17分、サイドのクネゼビッチとビッカが2ゴール。エース9番ペルニッチがは今日初ゴールで逆転。がぜん盛りあがる。ユーゴの底力を感じる。スウェーデンは21分アンデルソンが7mスローの失敗、トールソンが速攻のノーマークが決められず、逆にユーゴのツネツエビッカがまたも右サイドからゴール左上にゲット。

スウェーデンは、この10分間ゼロがのちのち大きく響いた。23分ようやくロブグレンが7mと左45度からのゲットで同点。残り5分、両チーム激しい攻防。ユーゴはここで10番ブツリヤからスクルビッチのポスト。つづいて28分ペルニッチが渾身のシュートで2点差。29分スウェーデンカールレングのポストでかえし1点差。ノータイム、フリースロー、両チームベンチ、選手がコート上に入れ乱れて、混乱したがユーゴが逃げ切った。最後の5分間は見ごたえのあるプレーが続き好ゲームだった。

● ●

6月2日　決勝戦

ロシア23（13－9、10－13）22スペイン

得点	[ロシア]	番号	番号	[スペイン]	番号
0	A.ラフロフ	1	1	フォルト	0
2	I.ラフロフ	2	3	エスクィエル	0
6	コウレショフ	5	4	グイボサ	1
2	ボローニン	7	6	ゴンザレス	0
4	ゴピン	8	7	ロザノ	0
5	クジノフ	9	8	オラルラ	1
1	ドルゴバノフ	11	9	ガラルダ	4
0	スコシアン	12	10	ドイニエバエフ	7
0	グレブネフ	14	11	フェルナンデス	0
1	キセレフ	17	12	ヌネス	0
2	ポフレロフ	19	13	ウルディアレス	5
0	フィリポフ	20	14	ペレス	4
23		計			22


決定戦のロシア対スペインの攻防

3位決定戦のユーゴ対スウェーデンのノータイム・フリースロー


ロシアは予選リーグ前半ユーゴと引分けるなどしたが、一戦一戦上昇。得点力、また、防御力も安定感ではどのチームより優れている。

一方スペインは地元の熱狂的な声援を受けて予選と準決勝強豪のユーゴを撃破で堂々の決勝進出。選手、ベンチの観客との一体感で力以上のプレーを展開してきた。

ゲームは前半ロシアはスペインの甘い防御からの7mスロー3本を決めるなど、ハデさはないが着実にゲットしてリードを奪う。特に9番、左45度フローターのクジノフが高いジャンプからロングを決める活躍が光った。

スペインもさすが千両役者エースでリードオフマンのドイシェバエフが期待にこたえ、カットイン、ステップシュート。そして、ポストへのアシストプレーと185cmと世界の中でも小柄ながら、とにかくシュートのバリエーションが豊富。そしてシュートパスも多様に繰り広げる強い武器があり、スペインチームを引っぱる。

13—9と予想外の4点差で前半折り返し。後半も両チームG・Kのノーマークをとるなどの活躍もあり、15分まで同じ様なペース。

スペインも積極的なカットインプレーなどがでてロシアディフェンスをゆさぶる。

スペインは16分すぎ2mのポスト・ペレス、小柄なウルディアレスの7m、ドイシェバエフの左下へのゲットで反撃するも、右サイド・ウルディアレスのループシュート、ポストのラインクロスとノーマークをおとしなかなかつめられない。

ロシアは24分、左ポローニンがサイドから上に回りこみ貴重なシュート。しかし26分ロシア防御の要ポプレロフ、つづいてトルゴバノフが退場。このあとスペインが7mスロー2本、29分40秒、9番ガラルダが真中からゲット。残り20秒マンツーマンによりロシアのボールを奪い、3：2の速攻で得点するかにみえたが、あせってG・Kにシュートをとめられ終了。ノーマークだった速攻を決められずドイシェバエフは何故俺に回さなかったとゲーム終了後もくやしが

表3　第3回男子ヨーロッパ選手権大会出場12ヵ国の平均身長・体重

	身長	cm		体重	kg
1	ルーマニア	193.5	1	ハンガリー	95.7
2	ロシア	192.6	2	ルーマニア	95.0
3	クロアチア	192.3	3	スロベニア	93.2
4	ハンガリー	192.2	4	クロアチア	92.8
5	チェコ	191.0	5	ユーゴ	90.6
6	ドイツ	190.9	6	スペイン	89.5
7	スロベニア	190.8	7	ドイツ	89.4
8	ユーゴ	190.4	8	デンマーク	89.0
9	スウェーデン	190.2	8	スウェーデン	89.0
10	スペイン	190.0	10	ロシア	88.9
11	デンマーク	188.5	11	フランス	87.9
12	フランス	188.0	12	チェコ	86.8
		平均188.8cm			平均89.7kg

表4　第2回男子ヨーロッパ選手権大会出場12ヵ国身長層

	ロシア	スペイン	ユーゴ	スウェーデン	クロアチア	チェコ	ドイツ	フランス	ルーマニア	ハンガリー	スロベニア	デンマーク	合計
200cm	4	1	2		1	1	3		3	2			17
199-195	4	4		4	5	4		5	2	3	3	3	37
194-190	1	4	5	6	6	6	5		7	6	7	3	56
189-185	3	3	7	2	4	3	5	4	4	2	4	6	47
194-180	3	3	1	4	2	2	1	2		4	1	3	26
179-175	1							3				1	5
175-170							1						1
170以下													189

表 5　第 2 回男子ヨーロッパ選手権大会出場12ヵ国別年齢層

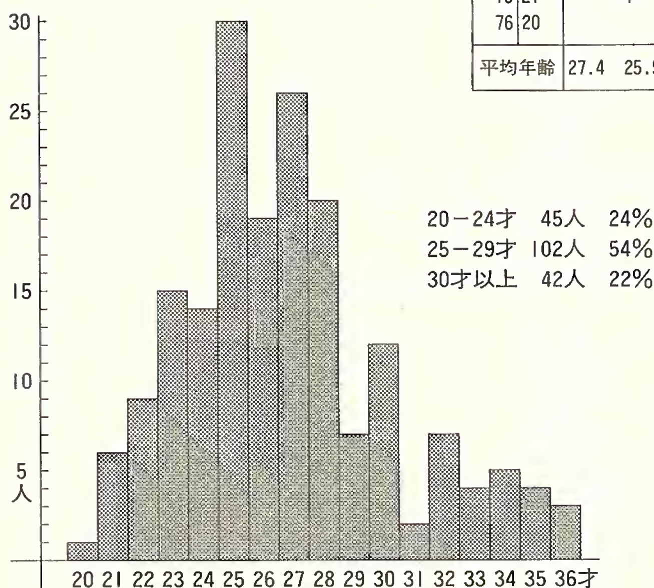
生れ	年齢	ロシア	スペイン	ユーゴ	スウェーデン	グロアチア	チェコ	ドイツ	フランス	ルーマニア	ハンガリー	スロベニア	デンマーク	人	比率
1960	36才				2			1						3	11.5%
61	35			1		2						1		4	2.1
62	34	2		1	1	1								5	2.6
63	33			1		1		1	1					4	1.1
64	32	1			3						1		2	7	3.7
65	31				1								1	2	1
66	30		2	2	3	4	2		2	1		1		17	9
67	29	2		1			2		1			1		7	3.7
68	28	1	3	2	2	1	1	3	2	3	1	1		20	10.5
69	27	2	4		1		2	3	3	6	3	1	1	26	13.7
70	26		1	3	1	1		3	3	1	3	2	1	19	10
71	25	3	1	3		4	4	1	2	2	3	3	4	30	15.8
72	24	1	1	2		1		1	1		2	2	3	14	7.4
73	23	1	1		2		1	2		2	2	2	2	15	8
74	22	2	2				1			1		1	2	9	4.7
75	21		1				3				1	1		6	3.1
76	20					1								1	0.5
平均年齢		27.4	25.9	28	29.8	28.4	25.5	27.1	27.4	26.2	25.6	25.8	25.6	26.8才	

ることしきり。
　しかし、スペインの大活躍で最後の最後まで大いに盛り上り、サポーターも大満足だった。ロシア・マキシモフ監督の選手起用と冷静なベンチワークが光り、固い防御力でヨーロッパ　選手権初優勝に導いた。

●　●

大会アラカルト

表 6　第 2 回ヨーロッパ選手権大会出場国年齢層分布



ヨーロッパ・ハンドボール連盟は、6月1日セビリア市内のホテルにおいて97年男子世界選手権大会（熊本）の第2次予選の組み合わせ抽選会を行ない、次のように決めた。
　なお、抽選会は各国はじめヨーロッパのプレスも含め130名近く集まって行なわれたが、日本からヨーロッパ選手権に行っていた日本協会・木野常務理事がスペシャルゲストとして抽選のクジを引いた。また、元ユーゴナショナルチームGKバシッチも同様に引いた。試合は8月末にプレ大会を行い、10月2日～12月1日の間で行われることになった。その組み合わせは以下の通りである。

●　●

97年第2次予選（ヨーロッパ）

◇グループ1
ルーマニア、トルコ、ベルギー、ノルウェー
◇グループ2
ハンガリー、マケドニア、リトアニア、グルジア／ウクライナ
◇グループ3
チェコ、ベラルーシ、オランダ、イスラエル
◇グループ4
ドイツ、スロバキア、ポーランド、ポルトガル
◇グループ5
デンマーク、アイスランド、エストニア、ギリシャ／キプロス
◇グループ6
スロベニア、スイス、オーストリア、イタリア
*プレ予選
ギリシャ／キプロス
グルジア／ウクライナ

●　●

97年男子世界大会にヨーロッパから6チーム決定

　この度の第2回ヨーロッパ選手権大会において1～5位のチームが97年日本(熊本)で開催される男子世界大会に出場する資格を得た。なお、第14回世界大会優勝のフランスは自動的に出場権を得ている。
　出場国はフランス、ロシア、スペイン、ユーゴ、スウェーデン、クロアチア。

●　●

　クロアチアのアルスナジッチ監督が大会途中にベンチに入らず指揮を取らなかった。大会期間中監督の失格の烙印を押されたのは珍しいことであるが、憶測によると予選リーグでのロシアとユーゴの敗戦で責任を取らされたようだ。
　アルスナジッチ監督は元ユーゴのGKでミュンヘン・オリンピック優勝プレーヤー。また、その後ユーゴのジュニアの監督で世界大会（ポルトガル）で優勝するなどの実績があり、カタールの監督を歴任している優秀な監督だった。

●　●

35歳のベテラン、ユーゴのブヨビッチ　選手で復帰

　ユーゴのスタープレーヤー・ブヨビッチが選手として復帰した。プレスセンターのインフォメーションにも選手としてプレーすることが流された。現在スペインリーグで活躍中だが、ユーゴでは攻撃力はさすがに落ちてはいるが防御のセンターディフェンスとしてまとめ、ユーゴ3位の躍進の立役者となった。

アトランタ・オリンピック ハンドボール競技のみどころ

男子はフランスを中心に!!
女子は韓国の3連覇なるか?!

アトランタ・オリンピックのハンドボール競技は7月24日～8月1日まで男子12ケ国、女子8ケ国が参加して争われる。

男子は昨年世界選手権の7位までが自動的に出場権を獲得し、残りアジア、アフリカ、アメリカ、ヨーロッパから各1ケ国出場する。

会場は、予選リーグは観客席8000人のホール、決勝は30000人のドームで行われ、現在チケットも予選は完売、決勝もほぼ80％方売り切れている。

男子は世界No.1のフランス中心で動くことは間違いないところだが、同じグループのドイツがスイス監督から戻したエーレート監督になり復活を遂げ上昇気流にあるだけに、また国技という自負もあり、フランスにどう挑むか興味深い。フランスは昨年の世界のMVPリシャーソンが絶好調で、トップディフェンスで相手の攻撃を崩し速攻に結びつけるパターンができているだけに安定感はピカ一。

Aグループではクロアチアがセオリー通りというか知的な理にかなったプレーをしてくるので楽しみ。スウェーデンもハンドボール国というだけに世界大会90年優勝、93、95年3位、前回のオリンピックで2位で今大会への意気込みはすごいものがある。ロシア、スイスも力があるので上位をねらっている。地元アメリカはスポンサーがつき、昨年から年間60試合（通常25）をこなし、今までの個人プレーが少なくなり組織プレーで対抗、地元の利を生かしてこよう。スペインが先のヨーロッパ選手権で2位となり、エース・ドイシェバエフ中心にまとまってきている。

女子は何と言ってもオリンピック3連覇がかかる韓国、昨年12月の世界大会でも優勝し欧州の強豪チームは韓国のスピードある攻撃についていけない。また、欧州にない独特のプレス防御が成功しているため全くスキがない。

世界のMVP林五卿（日本・イズミ所属）のコントロールタワーとシュート力が健在である。韓国への対抗は北欧のデンマーク、ノルウェー。毎回世界のどこへでもサポーターが応援に行く熱狂ぶり。バルセロナで2位のノルウェーは韓国に雪辱を果たしたいところ。デンマークも人気、実力とも備わっているアーナャ・アンデルセンのプレーしだい。ハンガリー、ドイツもパワーがある。ハンガリーで小柄ながら世界のMVPカタリン・シラギー、ドイツのエアラーの両センタープレーヤーのプレーにも興味が集まる。

'97世界選手権熊本だより

世界が熊本に集結

いよいよ来年に迫った男子世界ハンドボール選手権大会・熊本。このスーパーイベントの開幕まであと1年を切りました。

今年は、7月にアトランタオリンピックが開催されます。それが終わると、世界のハンドボール界の目は日本（熊本）一点に絞られます。十五回目となる今回の選手権は、初めてヨーロッパを離れた大会として、既に注目を集めていますが、日本（熊本）での大会は、今後アジア、世界の人気スポーツとして普及していく試金石と言えます。

開催地　熊本では、大会メイン会場となるパークドーム熊本も開幕に向け急ピッチで建設が行われ、日に日に世界選手権の準備も進んでいます。

サポーター募集

世界選手権熊本実行委員会事務局では、大会サポータークラブ「ひゅうた倶楽部」の会員を募集しています。

世界選手権のマスコット「飛勇太（ひゅうた）」をメインキャラクターにした「ひゅうた倶楽部」は、世界選手権に向けて「自分も楽しみたい」「何かで役に立ちたい」「何とか目立ちたい」そんなすばらしい心がけを持つ世界ハンドサポーターの組織です。入会無料。みんなが支える世界選手権です。さあ入会して大会をみんなで応援しましょう。

お問い合せ先
1997年男子世界ハンドボール選手権大会熊本実行委員会事務局
電話096-352-1997

その他世界選手権についてのお問い合わせ先
1997年男子世界ハンドボール選手権大会組織委員会東京事務局
電話03-3443-0503
熊本事務局
電話096-352-1997

交通アクセス

会場名	交通機関			
メイン会場	□熊本空港	タクシー	利用	20分
	□熊本インター	乗用車	利用	15分
	□JR熊本駅	タクシー	利用	50分
熊本県立総合体育館	□熊本空港	タクシー	利用	50分
	□熊本インター	乗用車	利用	40分
	□JR熊本駅	市営バス	利用	25分
熊本市総合体育館	□熊本空港	タクシー	利用	30分
	□熊本インター	乗用車	利用	25分
	□JR熊本駅	市電	利用	30分
八代市総合体育館	□八代インター	乗用車	利用	20分
	□JR八代駅	タクシー	利用	7分
山鹿市総合体育館	□菊水インター	乗用車	利用	20分
	□植木インター	乗用車	利用	25分

各インターは九州縦貫自動車道の各インターチェンジ



Venue A
Park Dome Kumamoto
(The Main Hall, capacity 10,000, 25mins*)





Venue D
Yamaga Municipal Culture and Sports Center
(Capacity 2,000, 55 mins*)



Venue B
Kumamoto Prefectural General Gymnasium
(Capacity 4,000, 8 mins*)



Venue E
Yatsushiro City General Gymnasium
(Capacity 2,500, 50 mins*)



Venue C
Kumamoto City General Gymunasium
(Capacity 3,000, 15 mins*)

* from the hotels in the city by coach

日本リーグ 新監督紹介
「日本リーグかく戦う」



男子
トクヤマ
前田裕之
1956.6.28生
山口県出身

リーグ3年目を迎えこれまでの気持ち(精神面)を変えなければ今後チームの向上を図ることが難しい。そこで、新キャプテン清水を中心に自らが気持を変えもっと自主的に物事に取り組む姿勢を養う。



男子
大崎電気
孟正逑
1939.11.28生
韓国出身

基本とDF（ディフェンス）に力を入れ、攻撃では個性を生かした、前を常に攻めるプレーで3位以内（プレーオフ出場）に入り、プレーオフを目ざしたい。



女子
イズミ
林王卿
1971.12.11生
韓国出身

初めて重責の役となり、心配な面が多々ありますですが、私は、昨年以上のリーグ成績（3位以上）を目標におき、若手選手のレベルアップを心掛け、ベテラン選手と上手に噛み合った迫力のあるゲーム展開になるようにしたい。



男子
大阪ガス
長田健嗣
1958.12.12生
大阪府出身

ディフェンスをキッチリ固めて、速攻で勝負し、上位進出を狙いたい。



男子
中村荷役
朴英大
1964.6.9生
韓国出身

昨年導入したフィジカルサポート体制をより充実させ、さらにパワーアップを図り強固なディフェンスとスピードのあるオフェンスに磨きをかけ3連覇を達成したい。



女子
シャトレーゼ
平塚一彦
1941.6.15
山梨県出身

今年は若手選手中心のチームになりそうである。ベテラン選手のパワーアップを受けながら明るく楽しいハンドボールを展開しながら早いうちでの1勝を目指して頑張っていきたい。



男子
三景
中村岳夫
1959.6.23生
愛知県
名古屋市出身

目標2部全勝優勝
（スタミナ・スピード・パワー）アップとミスをなくす。



男子
湧永製薬
河原隆雅
1964.1.3生
愛知県
名古屋市出身

ベテランが引退し、チームが若返ったものの、戦力自体はダウンした。今シーズンは、苦しい試合が続くと思うが一戦一戦が勝負、大切に戦い、それが自信につながり自力となるよう、チーム全体飛躍の年にしたい。

お 知 ら せ

国民体育大会ブロック大会開催県一覧

平成7年4月11日現在

	平成6年 愛知	平成7年 福島	平成8年 広島	平成9年 大阪	平成10年 神奈川	平成11年 熊本	平成12年 富山	平成13年 宮城	会期の決定時期
東北ブロック	宮城 8/19～21	秋田 8/25～27	山形 8/23～25	青森	岩手	(福島)	(山形)	(宮城)	前年秋の東北代表者会議
関東ブロック	千葉 8/26～28	茨城 8/25～27	神奈川 8/22～25	栃木	東京	埼玉	山梨	群馬	前年10月の関東ブロック会議
北信越ブロック	石川 8/26～28	富山 8/25～27	長野 8/24～25	福井	新潟	石川	長野	富山	前年12月の北信越ブロック会議
東海ブロック	岐阜 8/27～28	三重 8/19～20	愛知 8/24～25	静岡	岐阜	三重	愛知	静岡	前年12月事務局職員会議で公表 ※当該年度の5月の東海ブロック会長会議で正式決定
近畿ブロック	和歌山 8/26～28	滋賀 8/25～27	大阪 少年8/31～9/1 成年8/24～25	奈良	京都	兵庫	和歌山	滋賀	前年8月の近畿ブロック会長会議
中国ブロック	島根 8/26～28	岡山 8/18～20	鳥取 8/24～25	広島	山口	島根	岡山	鳥取	
四国ブロック	高知 8/20～21	愛媛 8/19～20	香川 8/24～25	徳島	高知	愛媛	香川	徳島	当該年度4月に決定
九州ブロック	佐賀 8/26～30	鹿児島 8/18～22	沖縄 8/17～18	福岡	熊本	宮崎	大分	長崎	

※開催地については、国体本大会、インターハイ等の関係で変更になることがあります。

平成8年度 エリートレフェリー

審査委員会は平成8年度エリートレフェリーを左記の通り選出した。

●北海道
林 俊夫・田中 勇
村瀬清史・大橋幹正

●東北
佐藤睦朗・大沢由和
菅野 肇・半田 忠

●関東
仲田 稔・植村 彰
菅田信也・山本興道

●北信越
阿部羅大蔵・浜野大介

●東海
楓 健児・渡辺貞彦

●近畿
馬場保夫・浜田浩嗣
家永昌樹

●中国
藤井俊朗・大熨嘉彦
原井 進・角 直樹

●四国
竹村久晴・坂井良至

●九州
森山正治・新荘悌男
仲里 貢・中地憲三

全国小学生ハンドボール大会の反省とメジャー化への課題

アンケート調査結果より

京都府ハンドボール協会副会長　小西博喜

平成7年度第8回大会を終って、参加チームの指導者を対象にアンケート調査を実施したので、今後のミニハンドボールが目指すメジャー化の課題について幾つかの問題点を提起し、男女五輪不出場の屈辱を機にジュニア育成の重要性を見なおしができる新体制を期待したい。

昭和63年2巡目の京都国体に端を発した本大会も、京都府田辺町が主催となり、行政・教育・ボランティア団体・町民関係各位のご支援と協力を得て、盛大にまた円滑な運営がなされてきた。更めて普及事業へのご尽力とご支援に対して深甚の敬意と感謝を申し上げる次第である。しかし、その間、田辺町助役故大門正和氏の急逝、昨年は(財)日本ハンドボール協会副会長故立石孝雄氏の偉大な両雄を失なうという訃報に接した。両氏には国体時から指導的立ち場のご要職にあり、将来的ビジョンの牽引者として大きな期待を寄せていただけにその失望は大きいものを感ずる。

ここに衷心より哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げる次第である。

また、この機会に大会事務局では、10年目を迎える〝大会の見直し〟気運が加わり、さらに平成9年に京都で開催するインターハイ会場となる田辺町、八幡市と合せて考え、田辺町の主催を返上し、今後は主管京都府ハンドボール協会が主体的に大会運営を担当することに決定したことをご了解願いたい。

次に、アンケート調査の結果からミニハンドボール育成に関する問題点について、将来を見据えた考え方を提案したい。

①現在全国小学生大会の出場ブロック数の分布をみると、東北・関東地区の参加が極めて少ないことである。その大きな理由として、遠征諸経費の捻出方法が問題であり、誠に頭の痛い話である。つまり、全国都道府県協会単位で教育行政機関、各市町村の社会教育関係との接渉で補助金が交付されないと、通常は全額自腹負担となってしまう。この現状を解決するための提案として、各都道府県協会内におけるハンドボールOB・OG有志の資金カンパ、スポンサー企業の寄附金集め等を含め、遠征費の支援を求めることが出来ないものだろうか。3～5年後には、子ども達の夢を開花する、JOC・インターハイ・大・実・ナショナルへの選手育成に一役買う地元普及対策の大きな先行投資ではなかろうか。

②全国ブロック別ミニハンドボール大会も将来のジュニア育成に重要な役割を果たしていることも事実。全国大会とブロック大会の日程が重なって出場できない声を聞くが、関係幹部役員のご理解で調整して頂き、全国小学生大会参加を優先するご協力をお願いしたい。過日、Y大手新聞社(大阪)へ全国的報道記事を含めて後援願を陳情した。運動部長の答えは簡単明瞭であった。「草の根サッカー・全国小バレー・全国ミニバスケットと同様に、出場チーム数が全国都道府県フル参加となれば、個々のチーム紹介を含め、大々的に記事をPRする」という回答でその記事も拝見した(2頁紙面全体写真入りの記事)。現在の参加状況をみると、この2・3年、22～24チームの参加数で増えておらず、全国的にも約半数である。これではミニハンドボールのメジャー化を目指しながら、日本協会は各都道府県協会に対して如何なる指導がなされているのかと問われ、実態は長期展望にかける極めて暗い不安を抱き先が読めない。

③全国都道府県協会において、陽の当らないミニ小学生のメジャー化は、少子化時代を迎える中で、数少ない小・中学校指導者の数である。ハンドボール顧問を増やすこと自体至難のワザではあるが、まず指導者間の連携によってよき協力者をつくること、また、公認スポーツ指導員の養成、さらにはボランティアファン層の指導者を仲間に入れるなど課題は山積している。学校体育、社会体育のあらゆる組織を総動員し、全国都道府県協会のフル参加の早期実現に向けてご尽力を願うことは、長期的な強化策の発展にかかっている課題であり、熟年OBのサポーター的な役割ではなかろうかと期待する。

④一方、小学生ハンドボールのメジャー化に向けて、最も大きなネックは小学校体育指導要領にハンドボールが導入されていない問題がある。小学校体育教材としてハンドボールの導入を考える場合、文部省体育局としては、サッカー・バレー・バスケット・少年野球等と比較し、全国小学生ハンドボール大会の経緯と現状、また、スポーツ少年団の活動実績の評価が問われるだろう。ところが全国小学生大会参加チームが全国都道府県別に約半数しか出場していない現状では、サッカーなど200余チームと比較して、極めてインパクトが貧弱、陳情しても説得力に欠ける恥しい思いがする。

また、スポーツ少年団についても同じことがいえる。現状の段階では、時期尚早として継続審議で見送られるだろう(今回、野球が体育教材に入った)。つまり、全国小学生大会の場合、全国都道府県男女各1チーム参加の義務づけが基本的な条件でありながら、全国のフル参加がみられない。まずそのことが先決であり、メジャー化への第一歩である。そのために東日本小学生(チェリーカップ)・西日本小学生(オリーブカップ)が山形・香川両県ハンドボール協会のご協力でスタートしたが、両県にすべてをゆだね、野放し状態にしてはジュニア育成の大事な組織まで機能を失ってしまう。

⑤現状の全国小学生大会出場チームのレベルをみると、九州地区がだんトツであるが、いずれのブロックにおいてもJOCジュニアオリンピックカップ大会の中体連と連動し、ジュニア育成指導体系が軌道に乗りつつあることは頼もしい。さらに高校への育成強化に継続するが、有望選手を選び短期間の国際合宿遠征のみに終ることなく、長期展望による育成計画であって欲しい。世界から遠のいたバレーボールがジュニア育成を怠り、目先の1勝にこだわったツケが問われ、緊急事態の体質改善を求められ、掘り下げた改革に乗り出せるかが注目される。中国での女子ジュニアアジア選手権の敗北3位(3チーム)をみても、ジュニア育成に対する危機感を根本的に改革しない限り、ハンドボール界の再起は望めない。

以上、ジュニア育成のメジャー化に向けて、地域差、学校差、スポーツ少年団との絡みがあるが、湧永製薬(甲田ハンドボール部)・ジャスコ(笹川スポーツ少年団)の普及活動が、地域への還元サービス事業として社会教育的意義を果していることを高く評価したい。願わくは日本リーグ1・2部チームが地域のジュニア育成のメディアとして社会体育活動に貢献して頂ければ、まず、これに優るメジャースポーツへの変身は夢ではない。過去に韓国・台湾が本大会に来日したが、アジアミニ国際交流を再現すべく、ミニハンドボール(1～3年・4～6年)の基盤づくりの構築は、ジュニア育成ハンドボールの発展にかかる至上命題であり、「ジュニア組織をなおざりにしてはいけない」ことを強調したい。

第8回全国小学生ハンドボール大会
アンケート集計結果（参加チーム）

[質問]
監督代表者会議の日程
[回答]
●大会当日……17
●大会前日……3

[質問]
監督代表会議の意見
[回答]
●今年通りでよいと思います。
●申し合わせ事項が守れることを望みます。

[質問]
競技方法
[回答]
●現行の予選リーグ、決勝トーナメント方式……15
●予選リーグなしでトーナメント方式……0
●敗者復活戦を取り入れる……5

[質問]
競技日程
[回答]
●参加チームが増えれば大会を4日間にしてもよい……1
●参加チームが増えてもコート数を増やして3日以内にしてほしい……19

[質問]
競技方法への意見
[回答]
●敗者復活戦が導入されればよいと思います。
●組み合わせが平等に考えられていて、とてもよかったです。
●1日1試合にできないでしょうか。
●予選リーグは会場を増やし1日で消化してほしい。
●3日目の準決勝からは、中央体育館でタイムテーブルを組んでほしい（同一会場で）
●最終日は決勝戦、3位決定戦だけでお願いしたい。体育館内は暑く選手の体調管理が難しい。現行の準決勝後に決勝戦（3位決定戦）を行うのではチームの状態がベストではない。
●予選リーグは3チーム2試合だが2位上がりもできるような工夫はできないのか？
●男女4試合合計8試合くらいの増なのでできると思うが…予選リーグで九州勢がいると接戦をしても希望がない。

[質問]
大会開催時期
[回答]
●8月上旬……12
●8月中旬……2
●8月下旬……2
●春休み……0
●冬休み……1

[質問]
大会開催期間
[回答]
●現行の3日間……18
●期間を延ばしてもよい……1
●期間を短くしたらよい……0

[質問]
大会開催地
[回答]
●毎年開催地を固定したほうがよい……14
●各都道府県持ち回りしたほうがよい……2
●当年の国体開催地がよい……1
●翌年の国体開催地がよい……1

[質問]
大会への意見
[回答]
●インターハイ関係で大変だと思いますが、今後も全国大会をぜひ継続してほしいと思います。
●第10回大会がなくならないようにお願いします（田辺東小）
●ありがたくてたまりません…ありがとう（田辺東小）

[質問]
審判への意見
[回答]
●今年は少しひいきめいたものを感じた部分もありました（試合後の発言等）
●試合が始まる時に審判の方からキャプテンマークのことについていわれました。オフィシャルルールだからつけるのが当然と指摘されましたが、オフィシャルルールの試合であれば黄色いワッペンの審判の方がいらっしゃるのはおかしい。全国大会レベルであればA・B級しかできないはずです…試合開始直前にそんなことをいわれ選手は動揺してしまって、ベンチとしてもたいへん不愉快な思いをしました。それからC級の方かD級の方かは分かりませんがはっきり言ってへたでした。大会事務局の方でオフィシャルルールを主張されるのならA・B級だけで審判はしていただきたいと思います。小学生の試合に慣れておられないのがベンチからも分かり、もう少し研修をしていただけたらと思います。
●顔面にボール（シュート）が当たったのにノーホイッスルでした。
●オバーステップの基準が審判に

よってバラつきがありました。

小学生の技能向上のためにも反則は反則として、しっかりとレフェリングしてほしいと思います。

●フリースローの時間（ボールを離すまで）の判断が審判によってまちまちでした。

●各審判の間の取り方とか、時間的感覚が短すぎたりゆっくりすぎたりしていたように思います。（特にフリースローが）

●フリースローからのシュートでディフェンスの顔面に当たった場合はゴールキーパーのそれと同じ扱いにすべきだと思う。距離的にこの方が短く危険です。

●松ヤニ等を確実に使用したチームがあったそうです。一番基本的なことが守れなくて残念です。

●小学生のプレーを配慮してもらった点はすばらしい。

●退場、ペナルティスローの基準が審判によって違うように思えた。

●ルールなので厳格でなければいけないが、選手交代のタイムラグを一考していただきたい（一回目は注意など…この大会に限定）

●松ヤニ等の使用禁止の徹底について。

【質問】
全国小学生ハンドボール大会以外に参加（開催）された大会について

【回答】

●2／10～12　西日本小学生ハンドボール大会（オリーブカップ）

●6／24～25　田辺町小学生ハンドボール大会

●7／2　京都府ハンドボール大会

●7／22～23　関東少年少女ハンドボール大会（群馬）

●8／6　北信越ハンドボール大会

●8／22　近畿小学生ハンドボール大会（全国大会予選）

●9／15　東北地区少年少女ハンドボール交流会

【質問】
全国大会事務局について

【回答】

●大会準備、運営大変ご苦労さまでした。おかげで心地よい汗を流すことができました。来年度も今年同様にすばらしい大会になり子供たちがのびのびとプレーできることを願っております。

●応対がとてもよく、大変気持ち良く参加できました。お世話になりました…。

●いつもお世話になりありがとうございます。できれば、これからもよろしくお願いします。

●毎年のことですが、細かい点まで配慮して運営していただき本当にありがとうございました。

●いつも親切にしていただきありがとうございます。

●大変お疲れ様でした。来年もよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました…。

●毎年開催にあたり色々な面でご協力いただき感謝しております。

【質問】
第8回全国小学生ハンドボール大会の前記以外のことについて

【回答】

●チーム数がもっと増えるとよいですね。東北地方からは、もう少し出場してきてもいいように思います。（チーム自体ないのでしょうか？）

●8回も実施してきているので組合せ（予選リーグ）がかたよってきている。前年度のベスト4をシードするとか…組合せについて明確にしてほしい。

●他の会場で試合を行うチームの場合、輸送計画どおりの時間に輸送していただかないと練習が十分できないので、輸送本部に申し出て早い時間のバスで輸送していただきました…他の会場で第2試合以降をする場合、そのチームについては、輸送計画の段階でもっと早くしておいていただきたいと思います。

●西日本と東日本のチーム参加数を比べると、東日本の参加数が少ないように思われます。少しづつは増えてきているとは思われますが、もっと多くのチームが参加すれば、さらに盛り上がると思います。

●今年も子供たちにとって思い出に残る素晴らしい大会になりました。事務局・スタッフの皆様、色々とご苦労いただき本当にありがとうございました。

●開会式、感動しました。特に入場行進はよかったです。

●夏の室内ということで仕方がないかも知れませんが、風が通らず暑かったです。でも室内でできるだけでも幸せですよね。

●スコア表といいますか？　記録表をコピーしていただきましたが、試合が終わった時点でチームの方にお願いしなくてもコピーしていただけるとありがたいです。

●宿泊費等の支払いの件ですが、振込み扱いにはできないのでしょうか？　今回、200万円以上の現金を持ち歩いたので、持ち慣れずとても疲れました。

●専属カメラマンによるゲームの写真を、大会後販売してほしい。

●毎年、技術が向上しているのを感じます。それと小学生には、どれくらいのレベルまで教えていいのか疑問をもつ毎年です。

（大会事務局）

マナーこそ“選手の命”

企画・広報委員　早川文司

ＴＢＳが坂本弁護士インタビューテープをオウム真理教幹部に見せていた問題は、人権やモラルなどいろんなことを考えさせられたし、社会の大きな反響を呼んだ。そうした最中、モラルとか大げさな問題ではないが、ちょっとした“場面”に出食わした。

ある競技の取材に出かけた時のこと。プレスルームで顔見知りの記者らと談笑していたところ、真ん中のテーブル近くでにぎやかな声が聞こえてきた。思わずそっちに目をやると、なんと４人が車座になってトランプ遊びをやっているのではないか。

「この場を何と心得る！」

周囲には資料を整理したり、ワープロを前に一生懸命原稿を書いている人たちがいるというのに…。

その場面を見た人たちは一様に不快感をあらわにした。プレスルームはトランプ遊びのためではない。あくまで競技団体が好意で取材に便宜を図ってくれたワーキングルームのはずである。

あとでわかったことだが、４人の不心得の主は、大手のテレビ会社の面々だった。

「ああいった常識しかないから、オウムのテープだって何も感じないで見せてしまうんだよ」

「いやあ、常識以前の問題だよ」

しばらくあっけに取られていた。

ＴＢＳの問題と結び付けるのはともかく、マナー欠如のなにものでもない。他人の迷惑など意に介さない、自分勝手な考えだけがそこでは堂々とまかり通っているとしか言いようがない。

スポーツ選手にも同じことが言える。いくらビッグネームの選手といえども、常識、マナーが身についていないと、周囲に信頼されない。要は人間性だ。名選手であればあるほど、行動は世間から注目されている。子どもたちの目もある。プレーと同時に人間性をみがくことも忘れてはなるまい。マナーは“選手の命”である。まさかハンドボール界にはテレビ関係者のような無礼はないと信じる。

フリースロー
Free Throw

指導者の条件

私の考える「指導者の条件（指導者論）」

藤原泰郎

例によっていささか抽象化し過ぎてこむつかしくなるけれども、たまにはこんなのもいいのではなかろうか。「体の体操」もいいが「頭の体操」も必要と思うが、さてさてどんなものだろう。

昭和40年代の後半から強いチームにはそれなりの何かがある。その「何か」とは具体的に「何か」。それを追い求めて遠征や合宿を重ねている中に次第に体系組織化されて、「瀬戸内（環周防灘）高校女子ハンドボール強化合宿」が発足して20数年。長い休暇時の長期合宿や連休などを利用した短期合宿。更に休祝祭日の日帰り遠征。それらが持ち廻りで今なお開放的に維持運営（幹事長中所和信先生）されているのは喜ばしい。そこで最も顕著であったのが、各指導者が確固とした「指導の理念」を確立して、それに基づいて徹底的に指導したことであろう。とりわけ効果的であったのが絶えず指導の「総論」にはじまって「各論」に至り、再び原点の「総論」に返って来るという理論の深化と拡大をはかることを繰り返したことで、これが指導者相互の研修会的な色彩の強い独特の合宿や遠征になった。この様な中で形成樹立したものを駆使して構築されたチームが、例えば文武両道の超エリート

図1 ＜あるべき指導者像＞

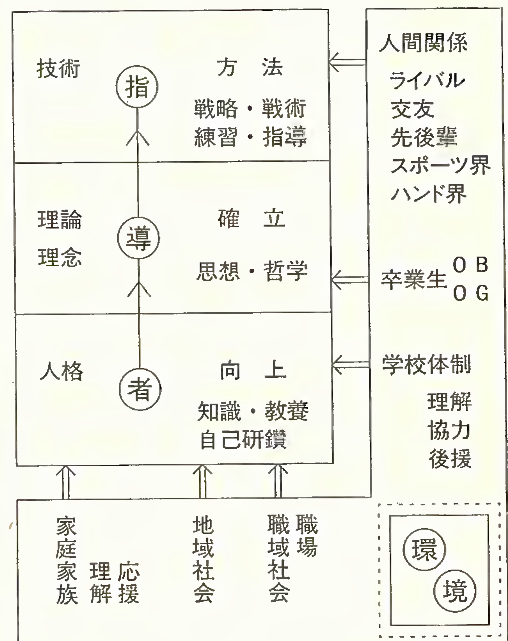
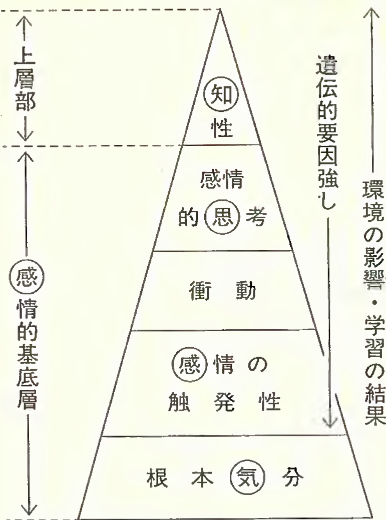
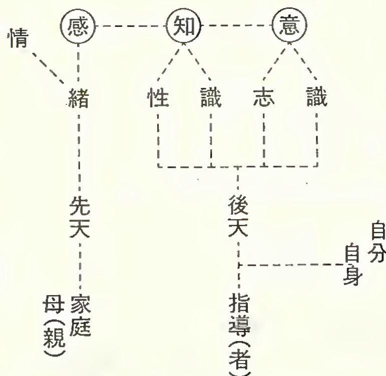


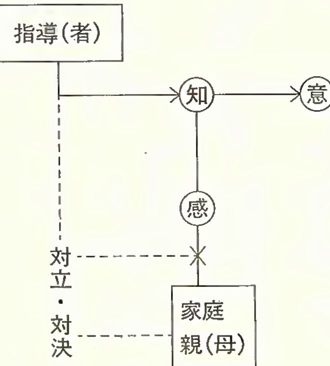
図2 ＜ゴットシャルトの位層説＞



＜自分も自分が創る＞



＜指導（客観）と障害（主観）＞



校であるにもかかわらず斯界のトップに座り続けていたかつての徳山高や、今でも史上最強と伝説的にさえなっている以前のグランドスラム大分東高などである。

ところでそのような「理論」とは優れて人間的精神的な「理」性による「論」理だから、対置相対的な人間の関係の中で生み出され、練り鍛えられてそれ相応のものになってくる。従ってより高度な人間関係がより高度な理論の前提条件になる。その様な条件下で各人が『現代否定的な改革意識や、あるいは発想の転換（逆転の発送）から、これまで常識とされて来たものを打破否定し、それを日常慣習化すると、それは「非常識の常識化」と名付けてよいものになる。そしてこれらを単にそこに留め置くのではなくて、より高次な弁証法的な発展に際限なく止揚する姿勢、その様な厳しい自己研鑽があってこそ、略スポーツの極限の時間と空間において、それにたずさわる総ての者の全人格的な優劣が勝負と運命を決する。略だからこそ過去の因習にとらわれずに自由闊達で柔軟な発想と思考と手法で、奔放に活躍するいわゆる「異色の指導者」と言われる人々が輩出するよう（県高体連50周年記念史）』に願うばかりである、とした。

そのためもあってあらゆるところで私なりの「指導者論」を発表して来たが、割とまとまった形で行なえたのが、日本ハンドボール協会の『平成4年度競技力向上指導者養成講習会』での「競技レベル別（コーチ論）指導法」であった。事前の「資料」として『私立高校女子コーチ論序説』なる14頁の冊子を送付したが、構成項目は1はじめに、2人格の向上を画る、3理論を確立する（独創「個性」的に、日常「継続」性を、計画「展望」的に、客観「数字」化を、心理「欲求」を読む、哲学「人生論」を持つ）、4指導の方法論、5おわりに、であった。以上の「資料」をもとにした講義を事後にまとめて『精神的発達段階に応じた指導について』と題した15頁の冊子にして配布したが、その項目は1はじめに、2青年中期の精神的特性について、3行動の三要素について、4親（特に母親と家庭）について、5指導者のあり方について、6心理的な指導について、7おわりに、であった。

この双方の冊子の中でそれらを理解しやすくするために図表（13枚）化したが、その典型的なモノをあげておきたい。先ず結論として「あるべき指導者像」を図1のように構造化した。ところで指導者の理（知）性・理（念）論の面ばかりで捕らえるのではなくて、それら以上に重要視されなくてはならないのが「感性」であろう。図2は「ゴットシャルトの位層説」の図型化だが、プロ野球某有名監督の「スポーツは感性だ」はよいとして、それを鵜呑みにして「ガーンといけ」とか、「カチーンと止めろ」等々でははじまるまい。そこで感（情）と理（知）と意（識）志との係わり、そして指導とのからみを先の講習会の事前事後の冊子で使用した図表を解説抜きで貼付しよう。図表化した意図を考えて下されば、多分に指導の一助になると思うのだが。

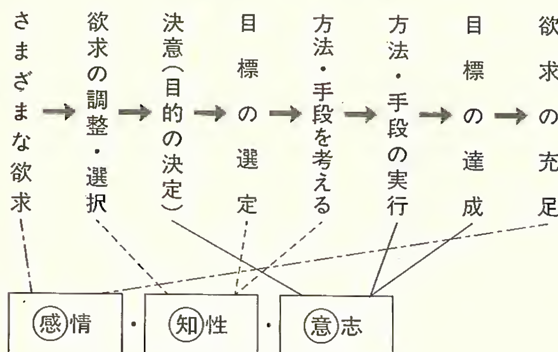


図3 <行動の三要素と相互関連肢>

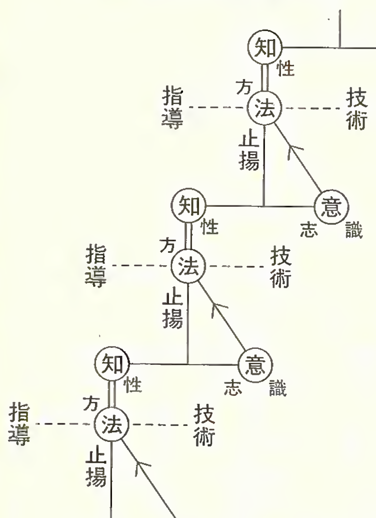


図4 <仮説・一つの（弁証法的）指導理論・体系>

【経歴】

国際試合　優勝一回。
全国優勝　2回。
全国準優勝　4回。
全国3位入賞　2回。
九州優勝　10回。
九州準優勝　4回。
九州3位入賞　11回。

指導者の条件

監督とは立派な社会人であり、ハンドボールのスペシャリストであれ



稲石　三二

経歴　選手　関東リーグ優勝　全日本総合優勝
監督　桜台高　インターハイ9回優勝(5連勝一回)
国体9回優勝(3連勝2回)
コーチ　芝浦工業大学　インカレ8回優勝　全日本総合3回優勝
監督　名古屋文理短期大学　西日本インカレ2回出場

基礎技術

いかようにも対応できる、ボディーバランスのとれるステップワークのトレーニングが重要課題であろう。その後にシュート力、フェイント力であり、ブロック、コンビネーションプレーである。上記の体づくりや、基礎技術をいかに妥協せずに徹底したトレーニングができるかどうかが将来のキーポイントとなる。

芝浦工業大学ハンドボールがインカレ8回優勝、世界3位のルーマニアと互角の闘いができたのも春夏合宿のハード・トレーニングをクリアーした強者ばかりの集団で、団結力と強固な精神の持ち主だったからである。

監督とは

プレーヤーぞれの人生にとって、貴重な体験であって、その折々の勝ち負けがかけがえのない財産である。それとともに優勝という栄光の座につけることができるならば、そのプレーヤーにとって生涯大きな糧になってくれるものと確信している。そのためには先ず監督自身が立派な社会人であり、ハンドボールのスペシャリストであること、また、競技のルールに精通し競技中の急変にも即応できることが、プレーヤーの信頼を勝ち得るものである。そして良きアドバイザーであり理想のチームづくりに精進努力を惜しまないことである。

基礎体力

ハード・トレーニングによって競技体力の充実と不撓不屈の競技精神を培い、傷害予防につとめる。特に膝間節損傷では治癒しても回復力は50%~70%といわれる。将来性のある有望なプレーヤーを失ってはハンドボール界にとって大きな損失といわなければならない。もともとハンドボールという競技は損傷の多いのも事実である。したがってゴールエリア付近での接触プレーについてはレフェリーも厳しく判定をしなければ、プレーヤーは重大な損傷をおこしかねない。多様な個性の持ち主の集団では各個人のプレーの特性を見出すことはむずかしいが、ハード・トレーニングはそれを容易にして、ポジションの選定時も大いに参考になる。

優勝の条件

○総合力で優れている
○プレーヤーを取り巻く環境が良い
○休養・栄養が充分とれる
○対戦相手のデータ収集
○負傷者が少ない
○レフェリーとの相性

私のチームづくり

「チームワーク日本一をめざして」
～感謝の気持ちが持てる選手に～

熊本市立高等学校　池田祐一



「ハンドボール王国・熊本」熊本市立高校に赴任して、はや1年が経ちました。本校の女子ハンドボール部の伝統は長く、しかも、インターハイ・国体の優勝はもちろん、オリンピック・世界選手権代表の先輩が数多く活躍された学校でもあります。

その伝統高いハンドボール部の指導者となり、驚き、不安、そして希望とのなかで、私のハンドボールのチームづくりがスタートしました。スタートしたとはいえ、ハンドボールの経験がなくルールもほとんどわからない状態、なぜなら、高校・大学と陸上競技（短距離）を専門にやってきたからです。そこで、これまでの実践報告をしたいと思います。

●指導の第一歩……
ボールを持つ前の心構え

私の指導の第一歩として実践することの1つに、3年間ハンドボールの技術を磨くことよりも「人間性をより一層磨いてほしい」という願いがあります。具体的には基本的な生活習慣を確立し、クラスでの役割、掃除など進んで取り組める姿勢を身につけさせることによって自主性や積極性を育てる。自分たちが毎日使うグラウンドの整備、コート外を含めた除草作業を行い、練習がより安全で気持ちよくできる環境を整えることから始めました。また、集団行動の重要性を共通理解させ「エースになるよりチーム一丸となれ」とチームワークの大切さを自分の体験等を通して指導を行いました。

●シューズは踵が命……
感謝の気持ちをもてる選手に

ここ数年、競技会や試合などでよく見ることの1つにシューズの踵を踏みつけている選手（生徒）を見かけます。赴任した当時、19名の部員のほとんどが練習が終わるとシューズの踵を踏みつける状態でした。今まで、陸上競技を専門に0・01秒の壁と戦っていたせいか「シューズは踵が命」なのです。現在でも、踵を踏むと怪我をするといって選手たちに言い聞かせています。また、「物を大切にする心」シューズを買ってもらった人への「感謝の気持ち」がもてるようにと指導にあたっています。

※昨年、実業団・オムロンの西窪勝広監督さんの話題のなかでも同じような話がありました。

●ベスト4への壁……
自分との戦いを乗り越えて

1年目の高校総体「ベスト8」新チームの目標は「ベスト4」しかし、中心の2年生部員全員が高校から始めたハンドボール、その選手をどのように指導していくかが大きな課題となります。そこで私は、基本的なパス・キャッチは勿論のこと、50分間戦える基礎体力、スタミナ（持久力）の育成を図りインターバル走、階段走、1000m測定、ハードルトレーニングなど陸上競技を生かした練習を行いました。お互いに我慢の日々が続きます。

夏の終わりの頃、見違えるほどのスタミナがついたと同時に精神力が養われ、11月の新人戦を迎えました。ベスト4を賭けた試合、延長戦に入り期待できることはスタミナと精神力、一人ひとりが自分との戦いを乗り越えベスト4への壁を破り、勝利と自信をつかむことができました。

これまで、数多くの諸先生方に指導を頂きながらも私の指導法は失敗、後悔の連続です。しかし、チームとしては私が目指すカラーになりつつあります。また、チームゲームのおもしろさ、全員でつかんだ勝利の喜びを感じ取ることができました。技術面での指導に課題が残りますが、今後も部員と共に活動するなかで、お互い学びあい、共感できる状況を作っていきたいと思います。

なお、技術面の向上ばかりでなくハンドボールを通して「女性らしさ」「言葉づかい」を身につけてもらい、一人の人間としてどのような社会にでも対応できるような生徒指導をおこなっていきたいと思います。

平成7年度コーチ・レフェリーシンポジウムより

ナショナルチームの指導と方向性

全日本男子監督
オレ・オルソン

訳＝栗山雅倫

◇　はじめに　◇

今回はこのような機会をいただきありがとうございます。

月曜日から、早速名古屋にてナショナルチームが始動いたしますが、今日は1時間にわたって来年の熊本世界選手権に向けてのチーム活動の考え方等を紹介いたします。

今回、時間の都合上準備できませんでしたが、通常は、ビデオ・絵などを使って言葉の障害を補いながら説明していくつもりです。来年同じような機会があるならばそうさせていただきます。

私のバックグランド、日本でのハンドボールとの関わりは、昨年前全日本チームのアシスタントコーチを3カ月やらせていただきました。それは私にとって大変素晴らしい時間でありました。

また、この時に蒲生氏より、日本の社会、ハンドボールについて学ぶことができたのです。コミュニケーションもボディランゲエージを使うことにより、難なくはかることができました。

まさにこの3カ月なくして現在の私がここにいることはなかったと思います。

あらためて蒲生氏にお礼申し上げます。

◇　現在までの経過　◇

これまでの経過ですが、ナショナルチームの監督として、12月から選手選考のため2度来日しています。もちろん今までのナショナルチームのメンバーに関してはよく知っていましたが、新しいメンバーを見つけ出すためにも今回十分な視察をしてまいりました。日本リーグを計5～8試合ほど観戦したと思います。また、1月の来日の際には、1部リーグの8チームを訪問させていただきました。

最初からお話いたしますと、昨年、蒲生全日本のアシスタントコーチとしてスタートする前に、まず全日本のアイスランドでの世界選手権の5試合を分析しましたが、これが日本ハンドボールとの始まりでした。そしてここから大会まで3カ月の間に、プレーヤーに何を伝えるか、いくらかのアイデアを見いだし、実践したのですが、結果としていくらかの変化が見られたことは非常に喜ばしいことでありました。

しかしながら3カ月の短期間であったので、限りがあったのは言うまでもありません。いずれにせよチームを作っていく上での基本はここにあります。

◇　選手選考　◇

選手選考に際して、やるべきことは沢山あるのですが、月曜日には実際にスタートし熊本世界選手権までは14カ月と半分しかありません。したがって、選手の能力をテストするのに十分な時間は確保できず、早速具体的なトレーニングを開始します。

選手選考に関しては、特別なプレーヤーということで選考に当たりました。そこで1部リーグのみの視察をしてきました。なぜなら通常1部リーグにトッププレーヤーが所属すると思われたからです。ある意味で日本リーグは、世界のトップレベルに到達していないのが現状であるため、世界で通用する可能性を持ったプレーヤーを探してきましたし、また、特殊な資質を持ったプレーヤーを選考してまいりました。無論、彼らは今日の優れたプレーヤーでありますし、97年までに伸びる可能性を持ち得た選手でありましょう。

次に、プレーヤーは、それぞれのチームで特別な役割やコンビネーションがあると思いますが、当然全日本チームでは、両隣りが異なるプレーヤーでありますし、プレーも変わってくると思います。そこでそういった環境の変化に対応できることも求められます。

そして特別なパーソナリティを持つ選手。結果を求める他に熊本の世界選手権は、日本においてハンドボールを売り込む絶好の機会であります。このレベルでのハンドボールは競技である他、エンターテイメントとしての側面を持っています。ですから特別なパーソ

ナリティがプレーヤー一人一人に必要なのです。プレーヤーがゲーム中どう演じるかは大きな鍵です。

　最後に【THINKING PLAYER】、このレベルでのハンドボールは“チェス”とも言えます。すなわち、頭脳的な勝負です。ゆえに、考えられるプレーヤーが必要なのです。

◇　◇

日本選手の形態的問題

　また、プレーヤーを選考している段階で、日本人の形態的な不利が浮き彫りになってきました。特にヨーロッパのプレーヤーと比較して非常に小さいのです。みなさんご承知のとおり、ハンドボールはコンタクトスポーツです。例として想像してみてください。大きい車と小さい車が衝突します。あなたはどちらの車に乗っていたいですか。

　当然のことながら、背を伸ばすことは不可能です。しかし横幅はどうでしょう。これはすべての選手にとって変化可能なものです。そして筋力の増強等をはかるのです。これは経験上言えることですが、力が増大すれば精神面の変化も生じます。すなわち自信がついてくるのです。

目標

　ここでチーム目標についてお話したいと思います。失礼な言い方になりますが、日本チームより上位に位置するチームを25カ国簡単に上げることができます。

　野田氏との話し合いで、最初、ベスト16に入ることが上げられましたが、すなわち4グループ24カ国の出場チームで行なわれる世界選手権で、グループでおそらく2試合勝つことが求められます。そこで次にベスト8はどうだろうかということになりました。これはグループで4位になったとして次のラウンドで他グループの1位のチームとやって勝つことが必要なのです。ということは、世界のベスト4の一つを倒さねばならないということです。確かにこれは非常に難しいことですが、もしこの方法でベスト8に入れるならば、他のどの道をたどってもベスト8にはなれるということになりましょう。

　順位の話はこれくらいで、実際の目標設定ですが、もしベスト16の目標に対して達成したとして、次へのエネルギーは残るでしょうか。達成感に浸り、次へのステップは踏み出さないでしょう。ですから目標に敢えて上限は定めないことにしました。確かにチャンピオンになるのは難しいことです。しかしこれは依然として可能性のある問題なのです。ここでOHPをご覧ください。

IT IS POSSIBLE TO BECOME WORLD CHAMPIONS 97!!

　これをスローガンにやっていきたいと思います。大真面目です。

◇　◇

チーム活動

　活動に関するすべての詳細は今回お話はできませんが、それらは私の秘密兵器であるコンピューターの中に刻まれています。ともかく、最初からハードにやっていくつもりです。

　私はあらゆる世界トップのナショナルチームの監督や選手を知っています。そしてわれわれが定めた目標が如何に難しいかも知っています。ですが考え方を変えてみてください。日本はトップレベルになる大きな可能性を秘めた、数少ない国なのです。たとえば、日本リーグのチーム。彼らはそれぞれ独自の施設を持ち、時間も豊富にあります。もしこのような状況がスウェーデンやデンマークであったなら我々はどれだけ幸せだったでしょうか。特に10～15年前はひどいものでした。東ヨーロッパの国々と競るなど当時想像もつかなかったことです。その中で89年にスウェーデンが世界一になったのは大変な驚きでした。

　85年に私のクラブチームがヨーロッパ選手権でセミファイナルまでコマを進めました。そこでロシアのクラブチームと戦うことになったのですが、彼らは6～7人のナショナルプレーヤーを持つほか、すべてがプロフェッショナルのプレーヤーでした。ここでイーブンなゲームが展開できたのは、信じられないことだったのですが、彼らは何と78人のドクターを抱える専用の病院を持つほどだったのです。こういったことを機にスウェーデンではトレーニングの質を変える必要性を抱き、実感していったのです。繰り返しますがこのような点からも、日本は大きな可能性を秘めているのです。

　ほかに日本チームのやるべきこととして、より多くの世界トップレベルの試合を観戦し、そこでのプレーについて議論を重ねていくことです。その中で日本チームにあったプレーを見いだしていきます。

　我々の戦術は選手が何をできるか、また、何ができるようになる

かを加味しプレーヤーに注ぎ込んでいきます。

◇　◇

強い個人の育成

スウェーデンは国民性から共同作業が可能です。同様のことが日本にも言えます。これはハンドボールを考えた上で非常に有利なことです。ただし私の最も大きな挑戦の一つとして、日本チームにおいて如何に強い個人を作り上げていくかといった問題があります。強いチームには強い個人が不可欠ですが、これが前全日本のネックになっていたようです。たとえば、前回の全日本に同行した際、プレーヤーは何と55日程度、怒りをほかのプレーヤーに表現しなかったのです。このようなことは、ヨーロッパでは起こりえません。現時点で日本チームの技術的な面はOKです。戦術的なことは開発できます。ただ性質は成長した環境にも大きく依存していて、変えるのは一筋縄ではありません。

そこで私のアイデアですが、プレーヤーに対して「日本人的振舞いは、更衣室に脱ぎ捨てろ！」と語りかけることです。

先の全日本と過ごした3カ月は素晴らしいものでした。人間性などどれをとってもパーフェクトでした。コート外では本当に素晴らしいことだと思います。ただし、コートの中で、これは障害にさえなりかねません。これを変えるのが非常に困難なのですが…。

◇　◇

ハンドボールチェス

良いチームの背後には、必ず良い考え方が存在します。いわゆる〝ハンドボールチェス〟があるのです。オフェンスに関しては、みなさんもご承知の通り、ロングシュートの成功率は、たかだか40％です。それに対しエリア付近からのシュートは60～70％の成功率になります。こういったことを網羅した考え方がそれぞれに存在するのです。

ディフェンスについては、種目を問わず良いものが要求されます。たとえば、ハンドボールにおいて強いチームには良いGKはつきものです。

さらにディフェンスについてですが、アメリカのバスケットボールのドリームチームは記憶に新しいと思いますが、その当時、彼らのオフェンスばかり注目されましたが、私個人の見解では、ディフェンスこそ賞賛されるべきものだと思います。同様のことがサッカーのブラジルチーム、ハンドボールのスウェーデンチームに言えると思います。

その他の例として、スウェーデンで行なわれたワールドカップ（アイスランド世界選手権のベスト8が出場）でのロシアチームはメンバーが全員入れ替わり、若くなった上、プロフェッショナルもいないチームでしたが、2位になりました。彼らはディフェンス練習のみ行なったそうです。

そこで日本チームにおけるディフェンスの考え方ですが、まずGKのスタイルの改善。これは現在世界一と思われるスウェーデンスタイルを取り入れたいと思います。次にシステムですが、1―2―3、0―6に関わらず、9メートルの中を守るということです。と言うのはロングシュートを確率良く決めるのは大変困難で、GKとのコンビで確率良く防げるからです。そしてエリア付近からのシュートチャンスを徹底的に取り除くことです。ただし、やられた場合は、ペナルティーや退場は避けることを目標とします。

こうすることによって、ディフェンスが良くなっていけば、当然速攻のチャンスが増えるといったハンドボールの法則に乗れるわけです。

オフェンスは逆に、エリア付近のシュートチャンスをメインにねらっていきます。また、現時点の日本チームの問題の一つとして、ディフェンスをうまく動かせないといったことがありますが、スピードを使ってこの問題を解消していきます。スピードは単に物理的なものではなく、プレーの選択等に関わる、脳の回転の速さも向上をはかります。

日本チームのもう一つ大きな問題点として、ミスの多さが上げられます。この対策として、プレーをシンプルにしてパターンをできるだけ少なくすること。ただし、一つ一つが洗練されて使いこなせることを目標にします。

◇　◇

おわりに

今日、すべてお話できませんでしたが、体力アップ、精神面準備等についても詳細にわたって説明することは可能です。精神面準備の一例として4月4日からの熊本キャンプでは世界選手権と同じホテル、同じ部屋に宿泊する予定です。

本日は以上ですが、まとめて最後にOHPをご覧ください。

IT IS POSSBLE!!

ありがとうございました。

ドイツ研修報告7

スポーツ科学の最前線基地で

順天堂大学ハンドボール部監督　東根明人

4月10日過ぎまでLeipzigでは雪が舞い、当地の人たちもいったい今年はいつまで冬が続くのかと嘆いていたのですが、それから一週間もすると、うって変わって連日30℃近くまで寒暖計の目盛りは上がり、春を通り過ぎ一気に夏が来たと、またまたおかしな天候だと心配しているこの頃です。

さて、私は今月からDDR時代はFKS（体育スポーツ研究所）、現在はIAT（応用トレーニング科学研究所）と呼ばれている施設でも研修をすることになりました。この研究に関しては、既に日本へも紹介されていますが（トレーニングジャーナル等）、簡単にその概要を説明します。

FKSは、DHfK（Leipzig体育大学：現在ではLeipzig総合大学の体育学部となっている。）と同じ敷地内にあり、この研究所は大学の付属施設でしたが、国際的スポーツへの科学の導入が益々重要視される傾向の中で、1969年に独立しました。当時研究所は秘密にされており、一般の人々はその存在すら知らなかったといいます。こうして当研究所は、スポーツ科学の最前線基地としての役割をフルに発揮し、その後のオリンピックをはじめとする、各種国際大会におけるDDRの飛躍的なメダル獲得に貢献したのです。FKSには、一般的なスポーツ医・科学に携わる研究者が200人、種目別の専門研究者が100人、図書や事務、維持管理の職員300人合計600人ものスタッフで構成されていました。しかし、FKSは東西統一後の1990年12月末をもって、解散となりました。そして1992年3月16日、IATと改称し再スタートを切ったのです。しかしながら、スタッフは600人から120人に削減され、専門部も再編成されました。

私は、IATの研究員の一人であるDr. H. Sandnerの所へ行き、ハンドボールに関する文献や資料、そしてトレーニング科学とはまた別の情報も収集することにしています（例えば、ハンドボールを取り巻くあまり表に出てこない情報など）。早速先日行ってきましたので、かい摘んでリポートしてみます。

鍵がかかっていて、関係者以外は入れないようになっている廊下を通り、彼の研究室に通されました。そして、「どんな分野に興味があるのか。」あるいは、「どのような質問があるのか。」と聞かれました。私は、始めにハンドボールに関するゲーム分析、トレーニングプランそしてコーチ育成に関わる文献を見せて欲しいと言いました。彼は、データバンクに登録してある関連文献を直ちに見せてくれ、約300枚にわたる文献リストをプリントアウトしてくれました。このリストに目を通し、必要なものを選びなさいということです。そして、それらはマイクロフィルムに収録してあるので、図書館にて閲覧可能であり、必要とあらばプリントアウトしてくれる旨、説明してくれました。

一般生活は、それ程現代化されているとは思えませんが、学問や研究分野では、最新の技術が早くから導入されているといいます。トレーニング科学においても、当初旧ソ連がその最先端にいましたが、DDRがコンピューターを導入した時点で、経験の構築を重視していた旧ソ連を逆転したといいます。

またこの日は、クラブとスポンサーに関する資料も入手することが出来ました。そこには、広告等に関する詳細な規定が書かれてあり、驚いたことにサイン会の費用まで定められているのです。更に、クラブの年間収入と支出についても（VfB Leipzigに於ける）具体的な説明を受けました。いったい収入源はどうなっていて、その割合などどのような経営になっているかなど、近い将来日本でも必ず参考になるのではと、メモをとりながら一生懸命耳を傾けていました。これからも、一歩踏み込んだより具体的な資料を収集しようと考えています。

最後に、"ビーチハンドボール"の続編を書きたいと思います。

○競技規則は、IHF及びDHBの規則に則り実施するが、以下の項目については異なる。

ゲームはレフェリースローによって始まる。レフェリースローによるボールが、ゴールエリア内にいるGKに直接渡ったとしてもプレーすることは出来る。ルーズボールに対するセービングを認める。ゴールエリア内にあるボールを、GK以外が取ることは認められている。得点後は、ゴールスローによって続行される。フリースローの際、相手側が3m離れる必要はない。フリースローは、ファールあるいはテクニカルファールのあった地点から行われる。所謂ペナルティースロー（7mスロー）は、ゴールエリアラインの後方から実施する（従って、正確には6mスローということになる）。

○ペナルティースロー・コンテスト（PTC）

2セット終了時点で1：1の同点の場合、勝敗はPTCによって決める。各チーム4人のシューターによって競われる。PTCの間は、コート上にはシューターと双方のGKのみ入ることが出来る。次に、その方法についてですが、GKは自陣のゴールエリアとサイドラインの交点からスタートした味方プレーヤーにパスをし、そのプレーヤーは相手ゴールへシュートする。シューターはボールをキャッチし、ドリブルなしでオーバーステップに注意をしながらシュートする。1ゴール1ポイントであるが、スカイプレーによるゴールは、2ポイントとする。これを交互に繰り返し、4人によるPTCのポイントが同点の場合、サドンデスによって決着をつける。また、GKは相手GKのパスを、ゴールエリアから出ていってカットしてはならない。

以上が、ビーチハンドボールの主なルールです。8月中は、ドイツ各地でゲームが行われます。年々盛んになってきていると聞きますし、事実スポンサーも大手がついて支援しています。

「国民体育大会参加監督・コーチ資格制度」について

愛媛県立松山東高校教諭（四国ブロック指導委員）　田中　達男

はじめに

愛媛県体育協会では、全国に先駆けて、かねてより取り組んでいた「国民体育大会参加監督・コーチ資格制度」（表１）を制定し、平成８年度より完全実施に踏み切っております。この制度の詳細について日本ハンドボール協会より紹介の依頼があり、今回、記載することになりました。この制度について、様々なご意見やご感想を持たれることと思いますが、競技力向上を図るための一つの取り組みとして、参考にしていただければ幸いです。

国民体育大会参加監督・コーチ資格制度

愛媛県体育協会では、競技力向上指導者も、競技志向の選手指導だけでなく地域スポーツ指導に目を向ける必要があることと制度や資格の生かし方に対する意見を集約する必要性から会議を重ね、「スポーツ指導者制度」を設けました。これを制定するに当たっては、体育協会の最も重視している「国民体育大会」から進めることにより、多くの意見を集約し、全員了解のもとに制度化することを目指したという経緯があります。ある大会に参加する監督・コーチには資格が必要と明記することによって資格者の活用が明確化され、さらに全市町村に対し、地域スポーツ指導員の養成ができるようになっています。表１に、その趣旨、目的について記載をしています。これを受け、「国民体育大会愛媛県選手参加資格制度」（表２）・「市町村スポーツ指導者規定制度」（表３）が制定されました。平成８年度は、この「国民体育大会愛媛県選手参加資格制度」により、スポーツ医科学の研究促進事業として国体選手の「健康チェック」（平成８年４月資施行）を完全実施し、各医療機関を県下に設けて、予選会の段階から代表選手に健康診断書を提出させ、受けていない者は参加を認めない方針です。さらに、「体力テスト」（平成９年４月１日施行）・「心理テスト」（平成10年４月１日）を順次完全実施していく予定です。

現状として、国体の監督・コーチを務める者が、表－１にある「指導者資質向上対策会議」に参加することで、参加資格の条件を有することができます。監督・コーチの指導者としての資質と指導力の向上という点では非常に意義深いものと考えることができます。中にはこのような見地をもたない指導者もいますが、人間は何かの刺激がないとなかなか行動を起こさないものです。その点においても、

表－１　国民体育大会監督・コーチ参加資格制度

１．趣旨

各競技団体において国体選手の指導に直接あたっている監督・コーチの資質と指導力の向上をはかり、指導活動の促進と指導体制を確立するため、県体育協会と加盟競技団体と一体となって「国民体育大会監督・コーチ参加資格制度」を制定する。

２．目的

この制度は次の事項の達成をはかることを目的とする。

(1)「指導者資質向上対策会議」（年間５回）を開催し監督・コーチの資格を与えるための条件整備をおこなう。

(2)この制度の運営を円滑にするため監督・コーチ有資格者を対象に、県体育協会と加盟競技団体は県体育協会の内部組織として連絡会議を、加盟競技団体は内部組織として協議会をそれぞれ設置し、役割に応じた活動方策等について協議する。名称は監督・コーチ協議会またはスポーツ指導者協議会とし規則は別に定める。

(3)各競技別スポーツの競技力向上発展に即応する指導体制を確立すること。

(4)競技団体内において監督・コーチの資格に応じた役割を明確にする。

３．監督・コーチの参加資格の範囲

国民体育大会の監督・コーチとして参加する場合は、県体育協会が毎年開催している「指導者資質向上対策会議」に年間３回以上出席し、更に、２年以上続けて出席している者で次の(1)①～⑤・(2)の資格のいずれかを有すること。

(1)日本体育協会公認スポーツ指導者制度に基づく有資格者

①地域スポーツ指導者（Ａ・Ｂ・Ｃ級）②コーチ（Ａ・Ｂ・Ｃ級）③教師（商業スポーツ施設指導者）（Ａ・Ｂ・Ｃ級）④スポーツプログラマー（１・２種）⑤スポーツドクター

(2)上記と同等とみなすことのできる有資格者

中央競技団体独自で行っている資格制度の有資格者及び、過去に指導者として相当の実績を持っている者で県体育協会と県競技団体が協議の上認めた者。

(3)参加資格を有しない者が国体に参加する場合は監督・コーチとしては認めないが、特別の理由がある場合は県体育協会競技力向上委員会で審査して引率者として認めることとする。

６．付則

この制度は平成８年４月１日から施行する。

制度化されたことは意義深いと考えられます。実際に、優秀な指導者の中には、この制度によって実施されている内容などについては、これまでの経験で試行錯誤しながら、すでに体得している人が数多くいます。反面、良い選手に恵まれながら、指導力の不足から、実績を残せずにいる指導者も存在します。彼らにとっては、これをいかに活用し、取り組むか、その姿勢が大切ではないかと思います。

この制度により、数年後、その効果があらわれてくると考えられますが、指導者自身の資質としてとらえれば、このことは、またとない機会です。しかし、優秀な指導者が資格がないために埋もれてしまい指導できなくなる（しなくなる）ケースも出てくることが予想されます。その場合も、技術・技能にとらわれず各分野の知識として多くのことを学ぶという姿勢をとれば、決して、マイナスにはならないはずです。指導者として、この制度化を「させられる」という意識としてとらえるのではなく、自らが多くの指導に必要な知識を得るという形をとれば、資格の有無に関係なく競技力の向上が図られ、普及をしていくと思われます。そして、国民体育大会の成績向上につながるように努力していってほしいものです。

本県ハンドボールの実状

本県ハンドボール協会において、この体育協会の方針に基づく現有資格者は、公認B級コーチ1名、C級コーチ3名、地域スポーツ指導員1名です。現状からいくと、限られた指導者しか監督・コーチができず、早急に有資格者を増やす必要があります。そのため、今年度は「平成8年度(財)日本体育協会C級スポーツ指導員養成講習会」を開講し、ハンドボールの普及を行い、国民体育大会をはじめ、各大会において本県の競技力を向上させ、指導体制の確立により強化していく方針です。近年、本県ハンドボールの競技力はやや低迷しつつあり、それを打破するためにも、今回の制度化にともない、一人一人が与えられたものでなく、自分のものとして、競技の指導に研鑽をつんでいきたいものです。競技に対する情熱には技能・技術・人材のみならず、指導の方法はじめここにあげられている心理面、健康面、体力面等様

表－2　国民体育大会愛媛県選手参加資格制度

1．趣旨

国民体育大会の愛媛県代表選手に選抜される者は、「スポーツを愛し、楽しむために、自発的に行う」「競技規則はもとより、自ら属する団体の規則を遵守し、フェアプレーに終始する」「常に相手を尊重しつつ、自己の最善を尽くす」「スポーツを行うことによって、自らの物質的利益を求めない」「スポーツによって得た名声を、自ら利用しない」（日本体育協会スポーツ憲章抜粋）の趣旨を十分に自覚し、21世紀を展望した躍動するスポーツの推進に努める。

2．目的

この制度は次の事項の達成をはかることを目的とする。

(1)国民体育大会の愛媛県代表選手としてベストコンディションで競技するため心身のチェックをおこなう。

(2)国民体育大会の趣旨を明確に理解する。

3．選手の参加の範囲

国民体育大会の愛媛県代表選手に選抜され、参加する場合は県体育協会が定めた「健康チェック」「体力テスト」「心理チェック」を当該年度の6月末までに受けるとともに、監督を通じて国民体育大会の趣旨を理解すること。

なお、上記のことを受けていないものは代表選手として参加することは原則として認めないが、特別の理由がある場合は県体育協会競技力向上委員会で審査して認める場合がある。

4．付則

(1)この制度の「健康チェック」は平成8年4月1日から施行する。

(2)この制度の「体力テスト」は平成9年4月1日から施行する。

(3)この制度の「心理チェック」は平成10年4月1日から施行する。

々な分野の知識をもつことも必要だと思われます。そのためには、一人でも多くの指導者が今回を機に勉強していってもらいたいものです。

おわりに

この制度化には、なお改善の余地があると思われます。各々の指導者が自己の資質の向上と競技力の向上をめざし、地域スポーツ指導へも目を向け、さらには、国民体育大会の成績向上を目指して取り組んでいってもらいたいものです。本県も、まだ、取り組みはじめたばかりであり、この制度を充分に活用し、少しでもよい方向に進むように指導者一人一人が目標を持って頑張ってもらいたいと思っています。

最後に、この制度の紹介ができる場を与えて下さいました日本ハンドボール協会に感謝の意を表し、この制度が、日本のハンドボール界の発展に少しでもお役に立てればと願っております。

表－3　市町村スポーツ指導者規定制度

1．趣旨

各市町村体育協会において地域住民の指導に直接あたっているスポーツ指導者の資質と指導力の向上をはかり、指導活動の促進と指導体制を確立するため、県体育協会と加盟市町村体育協会と一体となって「市町村スポーツ指導者規定制度」を制定する。

2．目的

この規定は次の事項の達成をはかることを目的とする。

(1)「地域スポーツ普及対策会議」（年間１回）を開催しスポーツ指導者の地域における地位の確立のための条件整備をおこなう。

(2)この規定の運営を円滑にするため日本体育協会公認スポーツ指導者有資格者を対象に、県体育協会と加盟地域体育協会は県体育協会の内部組織として連絡会議を、加盟地域体育協会は内部組織として協議会をそれぞれ設置し、役割に応じた活動方策等について協議する。

(3)各市町村のスポーツ普及発展に即応する指導体制を確立すること。

(4)各市町村体育協会内において日本体育協会公認スポーツ指導者の資格に応じた役割を明確にする。

3．スポーツ指導者の参加の範囲

スポーツ指導者として市町村体育協会の行事に参加する場合は、県体育協会が毎年開催する「地域スポーツ普及対策会議」に出席し、更に、２年以上続けて出席している者で次の(1)①～⑤の資格のいずれかを有すること。

(1)日本体育協会公認スポーツ指導者制度に基づく有資格者

①地域スポーツ指導員（A・B・C級）②コーチ（A・B・C級）③教師（商業スポーツ施設指導者）（A・B・C級）④スポーツプログラマー（1・2種）⑤スポーツドクター

4．付則

この制度は平成８年４月１日から施行する。

平成8年度全日本大会審判団

大会名＝
開催地＝
期日＝
審判員名＝

■第37回男女全日本実業団
熊本
5月1～4日
◎西村興八
○福田英明
家永昌樹・大熨嘉彦（指名）
喜井美雄・船谷真和（本田鈴鹿）
羽田裕一・菊地源（JUKI）
大城和彦・内田明克（ワクナガ）
長野和彦・坂本詔一（熊本）
建岡欣也・福島亮一（熊本）
田中一則・宮瀬知周（熊本）

■第47回全日本高校総体
塩山
8月2～7日
◎北岡大覚
○宮沢則夫○初鹿野仁
佐藤睦朗・大沢由和（指名）
大橋幹正・村瀬清史（北海道）
小沼慶二・鈴木琢磨（福島）
仲田稔・植村彰（千葉）
吉岡寛之・滝口真聖（神奈川）
福田弘・富田拓（茨城）
小西正寿・長野誠（栃木）
上小沢仁志夫・水越日出夫（山梨）
武藤寛・関口直人（山梨）
吉田利和・初鹿野仁（山梨）
小尾美雄・新谷幸司（山梨）
山口弘夫・岩上浩一郎（富山）
清水健太郎・片桐巌（長野）
細沢覚・内藤岳（静岡）
西田充・佐久間良幸（京都）
藤井俊朗・大熨嘉彦（岡山）
浜田浩之・森口裕次（徳島）
平原慶二・金子弘明（長崎）

■第39回全日本教職員
草加
8月6～9日
◎島崎政治
○上久保重次
武智誠治・松原誠起（指名）
松崎雅芳・小野寺明彦（北海道）
佐東秀治・星川威雄（山形）
高橋善浩・我孫子功（山形）
斎藤仁宏・田川卓史（福島）
田村和夫・斎藤政寛（埼玉）
小林一夫・土屋雅男（埼玉）
宮沢則夫・阿部健二（埼玉）
山口剛之・松浦則夫（埼玉）
栗田与一・譲原昭（群馬）
河先修・山下勝俊（栃木）
山下興道・菅田信也（東京）
菊田政行・滝川一徳（茨城）
八十山修・北中弘規（石川）
大石克哉・桜打佳浩（富山）

■第1回ジャパン・オープン・トーナメント
堺
8月11～14日
◎斎藤実
○北山隆○福井孝明
仲田稔・植村彰（指名）
竹村晴久・坂井良至（指名）
家永昌樹・大熨嘉彦（指名）
佐藤睦朗・大沢由和（指名）
浅井隆史・岸本光夫（大阪）
吉田敏明・寺内啓之（大阪）
杉山和彦・鈴木慎二（大阪）
佐谷光一・村尾亮（大阪）
太田寛人・勝本章裕（大阪）
伊藤保仁・尾崎浩祥（大阪）
佐々木昌弘・高原浩徳（大阪）
吉村剛志・鳥羽勇（大阪）
吉田正明・岡部清和（兵庫）
秋永昭治・能波羊二（滋賀）
矢野勝弘・佐川正巳（奈良）
田中秀和・山崎章（和歌山）

■第25回全国中学校大会
岐阜
8月23～25日
◎溝口博一
○桐下忠明
佐藤和孝・加藤益弘（東京）
藤沢健・鵜飼克博（愛知）
杉浦俊孝・有我勝典（愛知）
坂本和寛・三谷雅人（三重）
片山拓・近藤喜夫（三重）
加藤隆広・野久康明（岐阜）
岡本憲和・佐賀厚幸（高知）
奥田政俊・丸谷謙二（奈良）

■第51回広島国民体育大会
広島市甲田町
10月13～17日
◎大塚文雄
○柳井文治○中本成基
後藤登・清水宣雄（指名）
藤井俊朗・大熨嘉彦（指名）
浅井隆志・岸本光夫（大阪）
大羽隆夫・中森雅彦（京都）
位田俊夫・武田憲樹（滋賀）
中山学・山本圭司（岡山）
池田尚美・久保博（広島）
福岡篤紀・万代和孝（広島）
高俊之・奥川和永（広島）
古富博・加藤晃（山口）
原井進・角直樹（山口）
里和則・萬場幹男（鳥取）
平野雅也・渡辺一晶（香川）
武智誠治・川田哲也（愛媛）
竹村久晴・石川達也（愛媛）
森山正治・新荘悌男（福岡）
建岡欣也・福島亮一（熊本）
龍弘美・貞島早苗（佐賀）

■第39回全日本学生
熊本
11月5～10日
◎佐野和夫
○森川寿人
武智誠治・松原誠起（指名）
森山正治・新荘悌男（指名）
家永昌樹・大熨嘉彦（全日本学）
奥川和水・半田健（中・四国学）
建岡欣也・福島亮一（九州学連）
押川幸広・別府志郎（宮崎）
奥山誠恒・井料たか子（鹿児島）
関東学連1
東海学連1
関西学連1

■第48回全日本総合
東京
12月5～8日
◎大塚文雄
○上久保重次
後藤登・清水宣雄（東京千葉）
浜田浩和・小笠原久郎（東京）
武智誠治・松原誠起（愛媛）
仲田稔・植村彰（千葉）
阿部羅大造・浜野大助（石川）
森山正治・新荘悌男（福岡）
林俊夫・田中勇（北海道）
藤井俊朗・大熨嘉彦（岡山）

■第5回JOCカップ
堺
12月26～28日
◎溝口博一
○北山隆
楓健児・渡辺貞彦（指名）
清水保雄・桐下忠明（静岡）
奥田政俊・丸谷謙二（奈良）
金丸雅美・小林弘和（奈良）
梅田淳夫・横山和哉（和歌山）
田中秀和・山崎彰（和歌山）
小山勉・佐路清隆（京都）
松森三樹夫・西園友秀（兵庫）
浅井隆志・岸本光夫（大阪）
岡本寿一・川口裕史（大阪）
瀧孝二・丹田克巳（滋賀）
多田宣行・杉山孝広（香川）

■全日本実業団チャレンジ97
近畿
2月9～11日
◎村上潔
○北山隆
馬場保夫・浜田浩嗣（指名）
浅井隆志・岸本光夫（大阪）
吉田敏明・家永昌樹（大阪）
鈴木慎二・寺内啓之（大阪）
佐々木昌弘・高原浩徳（大阪）
実業団連盟3

■平成8年度高校選抜
名古屋
3月25～28日
◎北岡大覚
○秋山幸生○渡辺貞彦
浜田浩和・小笠原久郎（指名）
大橋幹正・俵英生（北海道）
多田和生・千田昭彦（岩手）
稲生茂・飯名剛士（千葉）
黒沢貞夫・安井貞徳（神奈川）
高田和英・田村裕志（石川）
光安美津夫・徳前紀和（富山）
藤井善彦・竹野誠司（福井）
片山聡・若林賢吾（静岡）
名倉昭弘・川地桂一（岐阜）
丸山竜司・藪内弘志（三重）
浅野幹也・神谷真次（愛知）
木和田浩史・河合千丈（愛知）
小山勉・佐路清隆（京都）
佐谷光一・勝本章裕（大阪）
加藤晃・日原和雄（山口）
佐藤公美・曽根哲司（徳島）
森山正治・新荘悌男（福岡）

各地学生春季リーグ戦

■北海道学生春季リーグ（5月16～19日・札幌）

▼男子1部

北大	33－27	小樽商大
函館大	44－12	札学大
道都大	30－28	札幌大
函館大	37－23	小樽商大
道都大	28－25	北大
函館大	48－19	札幌大
小樽商大	40－24	札学大
札幌大	26－23	北大
道都大	34－19	札学大
小樽商大	27－24	札幌大
函館大	31－24	札学大
札幌大	30－24	札学大
道都大	34－26	小樽商大
函館大	32－14	北大

［順位］
①函館大
②道都大
③北海道大
④小樽商科大学
⑤札幌大学
⑥札幌学院大学

▼男子2部

学園大	29－28	道工大
道工大	32－29	釧公大
函教大	32－23	学園大
室蘭工大	35－13	釧教大
函教大	33－11	釧教大
道工大	42－13	釧教大
室蘭工大	23－23	函教大
学園大	32－24	釧公大
学園大	35－10	釧教大
室蘭工大	34－24	釧公大
室蘭工大	25－20	道工大
函教大	41－13	釧公大
釧公大	25－17	釧教大
室蘭工大	28－19	学園大
函教大	30－17	道工大

［順位］
①北教大函館校
②室蘭工業大学
③北海学園大学
④北海道工業大学
⑤釧路公立大学
⑥北教大釧路校

▼男子3部

帯畜大	25－13	北星大
北工大	28－26	旭教大
旭教大	22－22	北星大
北星大	22－22	北工大
帯畜大	28－21	旭教大

［順位］
①帯広畜産大
②北見工業大
③北星学園大
④北教大旭川校

▼男子4部

北大医	32－16	学北見
酪農大	41－25	旭川大
酪農大	48－18	学北見
北大医	20－19	旭川大
旭川大	41－26	学北見
酪農大	22－14	北大医

［順位］
①酪農学園大
②北海道大学医学部
③旭川大
④北海学園北見大

▼女子

道女短	38－11	北大
旭教大	31－8	酪農大
北大	16－9	北星大
酪農大	10－9	北星大
旭教大	36－10	北大
道女短	37－9	北星大
道女短	27－9	酪農大
旭教大	30－8	北星大
酪農大	14－12	北大
旭教大	24－24	道女短

［順位］
①北教大旭川校
②道女子短大
③酪農学園大
④北海道大
⑤北星学園大

■東北学生春季リーグ（5月7日～10日）

▼男子1部

秋田大	31－14	盛岡大
福島大	20－17	学院大
仙台大	34－15	秋田大
福祉大	24－17	福島大
秋田大	16－15	福島大
福祉大	37－11	盛岡大
仙台大	41－9	盛岡大
学院大	18－15	福祉大
仙台大	25－10	福祉大
学院大	44－9	盛岡大
仙台大	23－20	福島大
学院大	32－17	秋田大
福島大	32－11	盛岡大
福祉大	20－14	秋田大
仙台大	26－15	学院大

［順位］
①仙台大
②東北学院大
③東北福祉大
④福島大
⑤秋田大
⑥盛岡大

▼男子2部

岩手大	30－20	山形大
東北工大	33－13	八戸工大
山形大	36－13	八戸工大
東北大	24－9	北里大獣
岩手大	41－11	八戸工大
山形大	18－13	北里大獣
東北工大	21－18	北里大獣
東北大	23－6	東北工大
山形大	24－13	東北工大
東北大	28－7	八戸工大
岩手大	21－17	東北大
岩手大	22－11	北里大獣
岩手大	30－17	東北工大
北里大獣	30－14	八戸工大
山形大	19－12	東北大

［順位］
①岩手大
②山形大
③東北大
④東北工業大
⑤北里大獣
⑥八戸工業大

▼男子3部

宮教大	31－8	北里大水
北里大水	12－0	秋田経法
学院大工	22－20	弘前大
日大工	29－13	奥羽大
学院大工	22－15	日大工
宮教大	20－11	学院大工
奥羽大	12－0	秋田経法
弘前大	26－14	北里大水
宮教大	39－9	奥羽大
弘前大	12－0	秋田経法
日大工	17－16	北里大水
奥羽大	16－14	北里大水
学院大工	12－0	秋田経法
宮教大	19－11	日大工
学院大工	28－5	奥羽大
日大工	12－0	秋田経法
宮教大	24－19	弘前大
弘前大	26－20	日大工
学院大工	33－9	北里大水
宮教大	12－0	秋田経法

［順位］
①宮教大
②学院大工学部
③弘前大
④日大工学部
⑤奥羽大
⑥北里大水
⑥秋田経法大棄権

▼女子

岩手大	26－4	奥羽大
福島大	16－8	宮教大
福祉大	31－4	岩手大
秋田大	27－8	宮教大
岩手大	23－6	宮教大
秋田大	25－6	奥羽大
福祉大	50－5	奥羽大
秋田大	13－12	福島大
福祉大	36－8	秋田大
福島大	27－6	奥羽大
福祉大	41－5	宮教大
岩手大	19－8	福島大
宮教大	14－10	奥羽大
秋田大	15－13	岩手大
福祉大	41－8	福島大

［順位］
①東北福祉大
②秋田大
③岩手大
④福島大
⑤宮城教育大
⑥奥羽大

■東海学生春季リーグ（4月7日～5月19日）

▼男子1部

中部大	36－11	名大
中京大	22－20	愛教大
名城大	27－17	愛学大
愛知大	23－21	南山大
中部大	25－24	愛教大
中京大	30－21	愛学大
名城大	24－8	南山大
愛知大	35－21	名大
中部大	25－22	愛学大
中京大	34－16	南山大
名城大	34－10	名大
愛知大	26－26	愛教大
中部大	26－13	南山大
中京大	36－5	名大
名城大	30－20	愛教大
愛知大	29－26	愛学大
中部大	33－24	愛知大
中京大	26－24	名城大
南山大	22－15	愛教大
愛教大	21－20	愛学大
名城大	26－22	中部大
中京大	48－18	愛知大
南山大	30－16	愛教大
愛学大	32－21	名大
中京大	32－18	中部大
名城大	34－27	愛知大
南山大	20－16	愛学大
愛教大	30－15	名大

［順位］
①中京大
②名城大
③中部大
④愛知大
⑤南山大
⑥愛知教育大
⑦愛知学院大
⑧名古屋大

▼男子2部

名学大	22－13	岐経大
名経大	12－0	名工大
岐阜大	39－10	静岡大
名学大	35－13	名工大
名経大	21－20	静岡大
岐経大	25－24	静岡大
岐阜大	31－17	岐経大
名学大	16－16	静岡大
岐経大	25－24	名工大
岐阜大	22－21	名経大
名経大	31－14	岐経大
静岡大	22－17	名工大
名学大	19－18	岐阜大
名学大	17－15	名経大
岐阜大	28－19	名工大

［順位］
①名古屋学院大
②岐阜大
③名古屋経済大
④岐阜経済大
⑤静岡大
⑥名古屋工業大

▼男子3部

名商大	24－21	豊高専
朝日大	26－17	東海大
三重大	25－24	日福大
朝日大	30－19	豊高専
東海大	23－21	日福大
豊高専	25－20	三重大
名商大	23－16	朝日大
三重大	25－24	東海大
日福大	20－19	豊高専
名商大	26－19	東海大
朝日大	30－22	三重大
名商大	29－21	日福大
朝日大	27－25	日福大
東海大	25－20	豊高専

［順位］
①名古屋商科大
②朝日大
③三重大
④東海大海洋部
⑤日本福祉大
⑥豊田工業高等専門学校

▼男子4部

豊技大	34－11	愛医大
学泉大	22－21	愛医大
豊技大	42－15	東学大
滋賀大	27－7	常葉大
滋賀大	35－12	東学大
岐教大	25－20	学泉大
豊技大	32－13	常葉大
岐教大	32－20	東学大
常葉大	24－21	愛医大

豊技大 31-15 学泉大
岐教大 22-17 常葉大
滋賀大 29-20 学泉大
常葉大 34-19 東学大
滋賀大 26-19 岐教大
愛医大 40-18 東学大
滋賀大 35-12 愛医大
学泉大 26-22 東学大
豊技大 34-21 岐教大
学泉大 23-22 常葉大
豊技大 34-21 滋賀大

[順位]
①豊橋技術科学大
②滋賀大
③岐阜教育大
④愛知学泉大
⑤常葉学園大
⑥愛知医科大
⑦東海学園大

▼女子1部
中女大 12-0 南山大
中京大 29-10 愛教大
文理大 29-18 豊短大
中女大 41-11 愛教大
中京大 17-16 文理大
豊短大 36-4 南山大
中女大 45-19 文理大
中京大 23-14 豊短大
愛教大 12-0 南山大
中女大 45-15 豊短大
中京大 12-0 南山大
文理大 30-16 愛教大
中女大 23-17 中京大
豊短大 23-18 愛教大
文理大 12-0 南山大

[順位]
①中京女子大
②中京大
③名古屋文理短期大
④豊田短期大
⑤愛知教育大
⑥南山大

▼女子2部
岐教大 12-0 岐阜大
静岡大 12-0 岐阜大
常葉大 22-8 静岡大
常葉大 12-0 日福大
岐教大 12-0 日福大
常葉大 28-11 岐教大

静岡大 12-0 日福大
静岡大 24-8 岐教大
岐阜大 0-0 日福大
（両チーム棄権）
常葉大 12-0 岐阜大

[順位]
①常葉学園大
②静岡大
③岐阜教育大
④岐阜大
④日本福祉大

■関西学生春季リーグ（日程不明）

▼男子1部
大体大 26-22 大経大
大体大 35-19 近大
大体大 37-17 関外大
大体大 25-15 桃大
大体大 35-17 天理大
大体大 32-23 京産大
大体大 33-22 立命大
大経大 33-21 近大
大経大 38-23 関外大
大経大 26-23 桃大
大経大 23-20 天理大
大経大 25-22 京産大
大経大 43-20 立命大
近大 24-19 関外大
桃大 20-18 近大
近大 27-17 天理大
京産大 25-17 近大
立命大 26-19 近大
関外大 23-21 桃大
天理大 25-20 関外大
関外大 没収 京産大
立命大 38-23 関外大
桃大 31-20 天理大
京産大 33-19 桃大
桃大 35-23 立命大
京産大 32-23 天理大
立命大 30-24 天理大
京産大 34-24 立命大

[順位]
①大阪体育大
②大阪経済大
③京都産業大
④桃山学院大
⑤立命館大
⑥近畿大

⑦関西外国語大
⑧天理大

▼男子2部
関学大 28-22
同志社大
関学大 22-14 関大
関学大 18-17 大教大
神戸大 22-17 関学大
仏教大 25-22 関学大
龍谷大 24-20 関学大
関大 22-20 同志社大
同志社大 32-17 大教大
同志社大 21-19 神戸大
同志社大 28-26 仏教大
同志社大 29-29 龍谷大
関大 32-18 大教大
関大 23-17 神戸大
関大 18-18 仏教大
龍谷大 24-22 関大
神戸大 22-17 大教大
仏教大 31-21 大教大
龍谷大 20-17 大教大
仏教大 26-24 神戸大
龍谷大 19-15 神戸大
仏教大 28-26 龍谷大

[順位]
①仏教大
②龍谷大
③関西大
④同志社大
⑤関西学院大
⑥神戸大
⑦大阪教育大

▼男子3部
京都大 24-24 神院大
神国大 26-24 京都大
大阪大 19-13 京都大
京都大 22-20 甲南大
大院大 30-25 京都大
京都大 19-17 京工大
神国大 35-26 神院大
大阪大 33-19 神院大
神院大 31-20 甲南大
神院大 22-17 大院大
神院大 34-27 京工大
大阪大 27-26 神国大
神国大 21-21 甲南大
大院大 27-25 神国大
神国大 33-27 京工大
大阪大 34-17 甲南大

大阪大 30-28 大院大
大阪大 36-23 京工大
甲南大 33-29 大院大
甲南大 41-27 京工大
大院大 33-27 京工大

[順位]
①大阪大
②神戸国際大
③神戸学院大
④大阪学院大
⑤京都大
⑥甲南大
⑦京都工芸繊維大

▼男子4部
大市大 23-15 和歌山大
姫独大 28-26 和歌山大
追手門大 20-18 和歌山大
大府大 26-23 和歌山大
和歌山大 41-22 大産大
和歌山大 26-17 奈良大
姫独大 31-17 大市大
追手門大 23-20 大市大
大府大 39-24 大市大
大市大 26-23 大産大
大市大 40-22 奈良大
姫独大 30-16 追手門大
大府大 27-18 姫独大
姫独大 34-14 大産大
姫独大 30-19 奈良大
追手門大 20-19 大府大
追手門大 27-24 大産大
奈良大 23-17 追手門大
大府大 32-26 大産大
奈良大 25-24 大府大
奈良大 35-25 大産大

[順位]
①姫路獨協大
②追手門大
③大阪府立大
④大阪市立大
⑤奈良大
⑥和歌山大
⑦大阪産業大

▼男子5部
大工大 18-11 滋賀大
滋賀大 19-14 京府医
滋賀大 17-17 京教大
滋賀大 20-12 甲子園大
滋賀大 25-12 京外大

滋賀大 18-16 奈教大
大工大 26-15 京府医
大工大 22-16 京教大
大工大 26-16 甲子園大
大工大 29-15 京外大
大工大 24-6 奈教大
京教大 18-13 京府医
甲子園大 21-20 京府医
京府医 26-15 京外大
奈教大 22-15 京府医
甲子園大 24-15 京教大
京教大 23-16 京外大
京教大 23-17 奈教大
甲子園大 25-8 京外大
奈教大 16-14 甲子園大
奈教大 棄権 京外大

[順位]
①大阪工業大
②滋賀大
③京都教育大
④奈良教育大
⑤甲子園大
⑥京都府立医科大
⑦京都外語大

▼男子6部
●Aグループ
大歯大 23-17 大外大
大歯大 31-16 京府大
神商大 20-13 大歯大
大外大 19-10 京府大
神商大 20-10 大外大
神商大 23-9 京府大

●Bグループ
電通大 40-11 近大農
電通大 26-13 兵教大
電通大 34-18 大薬大
兵教大 17-14 近大農
近大農 31-22 大薬大
大薬大 15-14 兵教大
神商大 17-17 電通大
兵教大 棄権 大歯大
大外大 24-19 近大農
大薬大 21-18 京府大

[順位]
①大阪電気通信大
②神戸商船大
③兵庫教育大
④大阪歯科大
⑤大阪外語大

⑥近畿大農学部
⑦大阪薬科大
⑧京都府立大

▼女子1部
大体大 22-19 武庫女大
大体大 22-19 大教大
大体大 34-21 天理大
大体大 31-17 関外大
大体大 39-7 成蹊大
大体大 36-15 立命館
武庫女大 24-19 大教大
武庫女大 25-11 天理大
武庫女大 38-8 関外大
武庫女大 33-4 成蹊大
武庫女大 38-12 立命館
大教大 22-20 天理大
大教大 36-13 関外大
大教大 36-5 成蹊大
大教大 33-17 立命館
関外大 22-14 成蹊大
立命館 20-17 関外大
立命館 24-17 成蹊大

[順位]
①大阪体育大
②武庫川女子大
③大阪教育大
④天理大
⑤立命館大
⑥関西外語大
⑦大阪成蹊短期大

▼女子2部
龍谷大 15-14 関女大
関女大 15-13 仏教大
関女大 26-7 関西大
関女大 27-10 京教大
関女大 24-12 関学大
関女大 28-2 園女大
龍谷大 16-15 仏教大
龍谷大 27-10 関西大
龍谷大 21-8 京教大
龍谷大 23-5 関学大
龍谷大 40-7 園女大
仏教大 15-11 関西大
京教大 14-13 仏教大
仏教大 13-11 関学大
仏教大 20-13 園女大
関西大 16-14 京教大
関西大 17-17 関学大
関西大 13-13 園女大

京教大	13－9	関学大
園女大	17－16	京教大
関学大	10－10	園女大

〔順位〕①龍谷大　②関西女子短期大　③仏教大　④関西大　⑤園田学園大　⑥京都教育大　⑦関西学院大

▼女子3部

大市大	24－7	神大
和大	19－5	神大
神大	11－9	甲南大
奈女大	22－4	神大
大阪大	21－8	神大
大市大	16－10	和大
大市大	棄権	甲南大
大市大	19－8	奈女大
大市大	17－8	大阪大
和大	棄権	甲南大
和大	21－8	奈女大
大阪大	20－16	和大
奈女大	15－6	甲南大
大阪大	21－10	甲南大
奈女大	10－4	大阪大

〔順位〕①大阪市立大　②和歌山大　③大阪大　④奈良女子大　⑤神戸大　⑥甲南大　⑦京都女子大

▼女子4部

大府大	25－18	滋賀大
追手門大	14－9	大府大
大府大	13－7	大外大
大府大	11－9	兵教大
大府大	20－6	大薬大
滋賀大	12－8	追手門大
滋賀大	9－7	大外大
滋賀大	14－11	兵教大
滋賀大	14－9	大薬大
大外大	13－8	追手門大
追手門大	7－5	兵教大
追手門大	7－2	大薬大
大外大	13－1	兵教大
大薬大	14－8	大外大
兵教大	19－14	大薬大

〔順位〕①大阪府立大　②滋賀大　③追手門大　④大阪外語大　⑤兵庫教育大　⑥大阪薬科大

■九州学生リーグ（4月30日～5月4日）

▼男子1部

福岡大	23－15	東和大
福岡大	33－24	福教大
福岡大	35－14	九産大
福岡大	31－12	熊本大
福岡大	31－16	琉球大
東和大	22－20	福教大
九産大	21－15	東和大
東和大	26－12	熊本大
東和大	28－20	琉球大
福教大	30－20	九産大
福教大	26－17	熊本大
福教大	30－16	琉球大
九産大	23－18	熊本大
琉球大	26－21	九産大
熊本大	24－24	琉球大

〔順位〕①福岡大　②福岡教育大　③東和大　④九州産業大　⑤琉球大　⑥熊本大

▼男子2部

沖国大	24－20	九州大
西南大	25－24	沖国大
沖国大	35－12	熊学大
沖国大	34－18	鹿児島大
沖国大	31－17	久工大
九州大	22－22	西南大
九州大	24－22	熊学大
鹿児島大	24－23	九州大
九州大	38－24	久工大
西南大	28－21	熊学大
西南大	22－19	鹿児島大
西南大	33－15	久工大
鹿児島大	26－17	熊学大
熊学大	30－14	久工大
鹿児島大	37－17	久工大

〔順位〕①西南大　②沖国大　③鹿児島大　④九州大　⑤熊学大　⑥久工大

▼男子3部

大分大	21－19	鹿経大
鹿経大	46－19	熊工大
鹿経大	26－23	宮崎大
長崎大	32－28	鹿経大
鹿経大	42－20	一経大
大分大	32－26	熊工大
大分大	37－16	宮崎大
大分大	23－14	長崎大
大分大	37－23	一経大
宮崎大	27－23	熊工大
長崎大	33－26	熊工大
一経大	32－30	熊工大
長崎大	32－20	宮崎大
宮崎大	30－17	一経大
長崎大	25－20	一経大

〔順位〕①大分大　②長崎大　③鹿経大　④宮崎大　⑤一経大　⑥熊工大

▼男子4部A

九工大	19－16	長総大
一工大	26－20	九工大
九工大	25－20	西工大
宮産経大	26－22	九工大
名桜大	28－15	九工大
長総大	27－22	一工大
長総大	29－14	西工大
宮産経大	32－26	長総大
名桜大	31－25	長総大
一工大	36－22	西工大
宮産経大	20－15	一工大
名桜大	41－14	一工大
宮産経大	20－0	西工大
名桜大	21－16	西工大
宮産経大	25－21	名桜大

〔順位〕①宮産経大　②名桜大　③長総大　④[illegible]大　⑤一工大　⑥西工大

▼男子4部B

日文大	41－17	九共大
日文大	27－19	熊県大
産医大	21－15	日文大
日文大	33－27	福工大
熊県大	22－21	九共大
産医大	26－17	九共大
九共大	28－28	福工大
産医大	34－21	熊県大
福工大	35－30	熊県大
産医大	31－26	福工大

〔順位〕①産医大　②日文大　③福工大　④熊県大　⑤九共大

▼女子

福教大	33－33	福岡大
福教大	29－17	九女大
福教大	40－17	琉球大
福教大	44－14	沖国大
福教大	45－12	熊学大
福教大	65－5	東海大
福岡大	31－19	九女大
福岡大	30－4	琉球大
福岡大	43－12	沖国大
福岡大	49－9	熊学大
福岡大	70－2	東海大
九女大	29－10	琉球大
九女大	32－14	沖国大
九女大	30－11	熊学大
九女大	51－8	東海大
琉球大	18－13	沖国大
琉球大	23－12	熊学大
琉球大	36－6	東海大
沖国大	24－16	熊学大
沖国大	30－8	東海大
熊学大	33－19	東海大

〔順位〕①福教大　②福岡大　③九女大　④琉球大　⑤沖国大　⑥熊学大　⑦東海大

※関東学生リーグは次号に掲載します。

〔お詫び〕
6月号の「ハンドボール競技における外傷・障害に関する調査報告」の原稿で、編集担当のミスで執筆者名から小西博喜（川崎医療福祉大学）、小西敏博（元神鋼病院）お二人の名前を落としてしまいました。ここにお詫びと共に訂正させていただきます。

ハンドボール　CONTENTS　7月号

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』第三六五号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成八年六月二十六日 印刷
平成八年七月一日 発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 三四八一－二三六一
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人 中澤重夫
定価三五〇円